



ウインクスライト

シンクライアント端末「WinXLight」

KDT512SCAAG-1

取扱説明書

このたびは、シンクライアント端末「WinXLight」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用前に本書をよくお読みいただき、本装置の機能、取り扱い方法などを十分ご理解の上、正しくご使用くださるようお願い致します。
またご不明な点につきましては、販売代理店または弊社営業部までご連絡ください。

【お願い】

- 本取扱説明書は、必要に応じていつでも読めるように大切に保管ください。
- 本書の内容および本装置の仕様は、改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 本書の内容につきましては万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたら、お手数ですが弊社営業カスタマサポート窓口までご連絡ください。
- 本書の適用の結果生じた間接障害を含め、いかなる損害についても責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本書の内容の一部または全ての無断転載、無断複写は禁止されております。
- 本装置は外国為替および外国貿易管理法の規定により、日本国外に輸出する場合には日本国政府の許可が必要です。

【保証について】

- 本書の注意書きに基づく正常な使用状態のもとで、保証期間内に万一故障し弊社がそれを認めた場合、無償にて故障個所の修理または交換を致します。
 - 本製品の故障またはその使用により誘発される二次的な災害については、弊社はその責任を負わないものとします。
 - シンクライアント端末「WinXLight」を正しく安全にご使用いただくため、下記の安全注意事項を必ずお守りください。これらの注意事項に反した取り扱いにより生じた損害について、当社は責任と保証を致しかねます。
-

はじめに



- 本書を使用して本装置の設置を行う場合は、第三種電気主任技術者以上の資格を御持ちの方か、低電圧取扱作業に関する教育を受けた方が設置を行ってください。それ以外の方が本書を使用して設置を行うことを禁止します。
- 本装置をご使用になる前には必ず、次ページ以降の「安全上のご注意」及び「使用上のご注意」をよくお読みになり正しくお使い下さい。

【表記記号について】

	取り扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定されるため、その危険をさけるための注意事項です。
	取り扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う可能性が想定される場合の注意事項です。
	取り扱いを誤った場合に、本装置を含む物的損害の発生が想定される場合の注意事項です。
	装置の使用上の詳しい説明や、具体的手順についての解説及び注意事項です。
	本マニュアル内での関連項目を記述しています。

安全上のご注意

**警告**

取り扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定されるため、その危険をさけるための注意事項です。

- 本装置が万一故障したり誤動作やプログラムに欠陥があった場合でも、ご使用されるシステムの安全が十分確保されるよう、保護・安全回路は外部に設け、人身事故・重大な災害に対する安全対策などが十分確保できるようなシステム設計としてください。
- 本装置のタッチパネルを使用して、人命にかかわるスイッチ(緊急停止スイッチ等)を作成することは絶対にしないでください。タッチパネルの誤操作や故障に対応できるシステム設計を行ってください。
- 保護接地端子は必ず第 D 種接地をしてください。接地をしないと感電する危険があります。
- 本装置は可燃性、爆発性のガスまたは蒸気のある場所では使用できません。
- 電子機器の使用が制限または禁止されている場所(病院など)で本装置を使用しないでください。電子機器や医療機器に影響を与え、事故の原因となります。
- 本装置の開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災や感電の原因となります。
- 本装置が万一故障した場合はただちに本装置の電源プラグをコンセントから抜き、使用しないでください。お客様ご自身が修理することは危険ですので、絶対に行わないでください。
- 本装置は、核施設・航空機の航空制御もしくは離着陸の管制システム・自動車やバスの運転・船舶の航行・生命維持装置のような、生命・身体・健康に影響を及ぼす環境下における、オンライン制御装置で使用するために設計されたものではありません。従って、本装置を上記目的のために使用しないでください。

**注意**

取り扱いを誤った場合に、使用者が損傷を負う可能性が想定される場合の注意事項です。

- 他の機器と接続するときは、接続する機器の電源を切り、各々の取扱説明書に従ってください。また、指定以外のコードを使用したり延長したりすると、発熱し、火災ややけどの原因となることがあります。
- ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。(本装置の質量:3.6Kg)
- 落雷時は、モジュラーケーブルや通信ケーブルに手を触れないで下さい。感電の原因となることがあります。
- 液晶パネルが破損した場合、内部の液体に触れた手で目をこすらないでください。なお万一、液晶パネルが破損して内部の液体が目に入った場合は、すぐに流水で 15 分以上洗浄した後、医師にご相談ください。
- 本装置のタッチパネルはガラスを使用しており、固いもので衝撃を与えたり、過度の力で押しますとガラスが破損してけがの原因となることがあります。

使用上のご注意



取り扱いを誤った場合に、本装置を含む物的損害の発生が想定される場合の注意事項です。

この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

本装置は、日本専用機で、海外での使用は考慮されておりません。従って、安全、EMC、無線、通信規格の異なる異なる海外での使用はできません。

以下の事をすると本装置が破損または、故障する恐れがあります。

- 振動のある場所や衝撃が加わる場所に置かないでください。故障の原因となることがあります。
- 本装置を分解したり、改造しないでください。内部に高電圧部があり危険です。また、故障やトラブルの原因となります。
- 本装置を周囲の温度変化が激しい場所での使用は避けてください。結露による故障の原因となる場合があります。
- 本装置のタッチパネルはガラスを使用していますので、固いもので衝撃を与えたり、過度の力で押しますと破損の原因となります。
- シャープペンやドライバーなど、先の鋭利なもので本装置のタッチパネルを押さないでください。傷や故障の原因となります。
- 電源投入前に本装置の定格電源電圧とコンセントの供給電源電圧が合っていることを確認してください。誤った電源を接続すると機器を破損することがあります。
- 本装置は保護接地と信号グラウンドが内部で接続されています。本装置を機械や制御装置に組み込んだ状態で溶接を行うと、溶接電流により本装置を破損することがありますのでご注意ください。

本マニュアルの記載と商標について

本マニュアルでの表記	正式名称
Windows2000 Server	Microsoft®Windows® 2000 Server
WindowsNT Server 4.0 TSE	Microsoft®Windows®NT Server 4.0 Terminal Server Edition
WindowsCE	Microsoft®Windows®CE Version 3.0
ICA	Citrix® Independent Computing Architecture
RDP	Microsoft®Remote Desktop Protocol

Microsoft とそのロゴ, Microsoft®Windows® 2000 Server, Microsoft®Windows®NT Server 4.0 Terminal Server Edition, Microsoft®Windows®CE は米国マイクロソフト社の登録商標です。

Citrix, Independent Computing Architecture(ICA), および MetaFrame は米国 Citrix System, Inc. の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

ORiNOCO,WLLUC461 は AGEAR SYSTEMS INC の登録商標です。

その他記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

また、Citrix サーバーは Citrix® MetaFrame を搭載した Windows2000 Server または WindowsNT Server 4.0 TSE の略称です。

オプション機器(別売)のご案内

本装置 (WinXLight本体) に取り付けられるオプション機器 (別売) として、以下の「卓上スタンド」、「保護カバー」をご用意しております。ご注文・お問い合わせについては、弊社営業部までご連絡下さい。



WinXLight 本体



卓上スタンド (別売)



保護カバー (別売)

- 卓上スタンド[型番: KDT312STSG]...卓上設置する場合に
- 保護カバー[型番: KDT412CV-1]...パネル表面の防滴・防汚用に

株式会社 小松製作所 使用許諾契約書

重要—以下のライセンス契約書を注意してお読みください。

本使用許諾契約書は、本システムに含まれるソフトウェアに関してお客様（個人または法人のいずれであるかを問いません）と株式会社小松製作所との間に締結される法的な契約書です。

本ソフトウェアは、コンピュータ ソフトウェアおよびそれに関連した媒体、ならびに印刷物（マニュアルなどの文書）、「オンライン」または電子文書を含むこともあります。

本ソフトウェアをインストール、複製、または使用することによって、お客様は、本使用許諾契約書の条項に拘束されることに承諾されたものとします。

本使用許諾契約書の条項に同意されない場合、お客様は、本ソフトウェアのインストール、使用または複製のいずれも許諾できません。

1. 本ソフトウェアライセンス

本ソフトウェアは、著作権法および著作権に関する条約をはじめ、その他の無体財産権に関する法律ならびに条約によって保護されています。

本ソフトウェアは許諾されるもので、販売されるものではありません。

第 1 条 ライセンスの許諾. 本契約書はお客様に対し、以下の非独占的かつ制限のある権利を許諾します。

A. バイナリコード

本ソフトウェアを含むバイナリコードは本ソフトウェアと対であるハードウェア上でのみにインストールや使用を許諾します。

B. 再頒布の禁止

本ソフトウェアを含むバイナリコードを第三者に配布することを禁止します。

C. その他の権利

本契約書にとくに規定されていない権利はすべて株式会社小松製作所によって留保されます。

2. 著作権

本ソフトウェアおよび本ソフトウェアの複製物についての権限および著作権は、株式会社小松製作所が有するものです。本ソフトウェアを使ってアクセスできるコンテンツについての権限および無体財産権はコンテンツの所有者の所有物で、適用される著作権法および著作権に関する条約の規定によって保護されています。本契約書は、お客様にかかるコンテンツの使用権を許諾するものではありません。本契約書にとくに規定されていない権利はすべて株式会社小松製作所によって留保されます。したがって、お客様は本ソフトウェアを他の著作物と同様に扱わなければなりません。ただし、本ソフトウェアのバックアップとして、コピーを作成することはできます。ただし、これを本ソフトウェアと対となるハードウェアに復元する以外の目的で使用することはできません。お客様は、本ソフトウェア付属のマニュアルなど文書を複製することはできません。

3. そのほかの権利と制限

A. リバース エンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブルの制限

お客様は、本ソフトウェアをリバース エンジニアリング、逆コンパイル、または逆アセンブルすることはできません。

B. サポート

株式会社小松製作所は本ソフトウェアを用いたお客様の作成したアプリケーションについて原則としてサポートを提供していません。

C. レンタル

お客様は本ソフトウェアをレンタルまたはリースすることはできません。

D. ソフトウェアの譲渡

本契約に基づいたお客様の権利を譲渡することはできません。

E. 解除

お客様が本契約書の条項および条件に違反した場合、株式会社小松製作所は、他の権利を害することなく本契約を終了することができます。そのような場合、お客様は本ソフトウェアの複製物およびその構成部分をすべて破棄しなければなりません。

その他本契約は、日本国法に準拠するものとします。

4. 保証

本ソフトウェアを変更なしに対となるハードウェアで使用した場合のみ動作を保証します。

また、変更あるなしにかかわらずお客様による本ソフトウェアのいかなる使用についても、そのリスクはお客様が負うもので、株式会社小松製作所は責任を負うものではありません。

5. 責任の制限

株式会社小松製作所は、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じる一切の損害(逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失またはその他の金銭的損失を含みますがこれらに限定されません)に関して一切責任を負いません。

たとえ、株式会社小松製作所がこのような損害の可能性について知らされていた場合でも同様です。

6. Windows CE ライセンスについて

Windows CE を搭載した本装置を使用することにより、END-USER LICENSE AGREEMENT FOR MICROSOFT SOFTWARE に同意したものとみなされます。



この契約内容に違反した場合はライセンスが破棄される場合があります。

END-USER LICENSE AGREEMENT FOR MICROSOFT SOFTWARE

- You have acquired an item ("DEVICE") that includes software licensed by KOMATSU from Microsoft Licensing Inc. or its affiliates ("MS"). Those installed software products of MS origin, as well as associated media, printed materials, and "online" or electronic documentation ("SOFTWARE") are protected by copyright laws and international copyright treaties, as well as other intellectual property laws and treaties. The SOFTWARE is licensed, not sold.
- [Approved alternative text if KOMATSU does not mention MS in the EULA text: "You have acquired an item ("DEVICE") which includes software licensed by KOMATSU from one or more software licensors ("KOMATSU's Software Suppliers"). Such software products, as well as associated media, printed materials, and "online" or electronic documentation ("SOFTWARE") are protected by copyright laws and international copyright treaties, as well as other intellectual property laws and treaties."]

IF YOU DO NOT AGREE TO THIS END USER LICENSE AGREEMENT ("EULA"), DO NOT USE THE DEVICE OR COPY THE SOFTWARE. INSTEAD, PROMPTLY CONTACT KOMATSU FOR INSTRUCTIONS ON RETURN OF THE UNUSED DEVICE(S) FOR A REFUND. **ANY USE OF THE SOFTWARE, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO USE ON THE DEVICE, WILL CONSTITUTE YOUR AGREEMENT TO THIS EULA (OR RATIFICATION OF ANY PREVIOUS CONSENT).**

- GRANT OF LICENSE.** The SOFTWARE is licensed, not sold. This EULA grants you the following rights to the SOFTWARE:
 - You may use the SOFTWARE only on the DEVICE.
 - NOT FAULT TOLERANT.** THE SOFTWARE IS NOT FAULT TOLERANT. KOMATSU HAS INDEPENDENTLY DETERMINED HOW TO USE THE SOFTWARE IN THE DEVICE, AND MS HAS RELIED UPON KOMATSU TO CONDUCT SUFFICIENT TESTING TO DETERMINE THAT THE SOFTWARE IS SUITABLE FOR SUCH USE.
 - NO WARRANTIES FOR THE SOFTWARE.** THE SOFTWARE is provided "AS IS" and with all faults. THE ENTIRE RISK AS TO SATISFACTORY QUALITY, PERFORMANCE, ACCURACY, AND EFFORT (INCLUDING LACK OF NEGLIGENCE) IS WITH YOU. ALSO, THERE IS NO WARRANTY AGAINST INTERFERENCE WITH YOUR ENJOYMENT OF THE SOFTWARE OR AGAINST INFRINGEMENT. **IF YOU HAVE RECEIVED ANY WARRANTIES REGARDING THE DEVICE OR THE SOFTWARE, THOSE WARRANTIES DO NOT ORIGINATE FROM, AND ARE NOT BINDING ON, MS.**
 - Note on Java Support.** The SOFTWARE may contain support for programs written in Java. Java technology is not fault tolerant and is not designed, manufactured, or intended for use or resale as online control equipment in hazardous environments requiring fail-safe performance, such as in the operation of nuclear facilities, aircraft navigation or communication systems, air traffic control, direct life support machines, or weapons systems, in which the failure of Java technology could lead directly to death, personal injury, or severe physical or environmental damage. Sun Microsystems, Inc. has contractually obligated MS to make this disclaimer.
 - No Liability for Certain Damages.** EXCEPT AS PROHIBITED BY LAW, MS SHALL HAVE NO LIABILITY FOR ANY INDIRECT, SPECIAL, CONSEQUENTIAL OR INCIDENTAL DAMAGES ARISING FROM OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THE SOFTWARE. THIS LIMITATION SHALL APPLY EVEN IF ANY REMEDY FAILS OF ITS ESSENTIAL PURPOSE. IN NO EVENT SHALL MS BE LIABLE FOR ANY AMOUNT IN EXCESS OF U.S. TWO HUNDRED FIFTY DOLLARS (U.S.\$250.00).

- **Limitations on Reverse Engineering, Decompilation, and Disassembly.** You may not reverse engineer, decompile, or disassemble the SOFTWARE, except and only to the extent that such activity is expressly permitted by applicable law notwithstanding this limitation.
- **SOFTWARE TRANSFER ALLOWED BUT WITH RESTRICTIONS.** You may permanently transfer rights under this EULA only as part of a permanent sale or transfer of the Device, and only if the recipient agrees to this EULA. If the SOFTWARE is an upgrade, any transfer must also include all prior versions of the SOFTWARE.
- **EXPORT RESTRICTIONS.** If these licensing terms are not labeled "North America Only Version" and the SOFTWARE is not identified as "North America Only Version" on the SOFTWARE packaging or other written materials, then the following terms apply: Export of the SOFTWARE from the United States is regulated by the Export Administration Regulations (EAR, 15 CFR 730-744) of the U.S. Commerce Department, Bureau of Export Administration (BXA). You agree to comply with the EAR in the export or re-export of the SOFTWARE: (i) to any country to which the U.S. has embargoed or restricted the export of goods or services, which as of May 1999 include, but are not necessarily limited to Cuba, Iran, Iraq, Libya, North Korea, Sudan, Syria, and the Federal Republic of Yugoslavia (including Serbia, but not Montenegro), or to any national of any such country, wherever located, who intends to transmit or transport the SOFTWARE back to such country; (ii) to any person or entity who you know or have reason to know will utilize the SOFTWARE or portion thereof in the design, development or production of nuclear, chemical, or biological weapons; or (iii) to any person or entity who has been prohibited from participating in U.S. export transactions by any federal agency of the U.S. government. You warrant and represent that neither the BXA nor any other U.S. federal agency has suspended, revoked or denied your export privileges. For additional information see <http://www.microsoft.com/exporting/>.

If the licensing terms are labeled "North America Only Versions" or if the SOFTWARE is labeled "North America Only Version" on the SOFTWARE packaging or other written materials, then the following applies: The SOFTWARE contains strong encryption features. The SOFTWARE may be distributed in the United States, its territories, possessions and dependencies, and Canada without an export license. Export of the SOFTWARE from the United States is regulated under "EI controls" of the Export Administration Regulations (EAR, 15 CFR 730-744) of the U.S. Commerce Department, Bureau of Export Administration (BXA). An export license or applicable license exception is required to export the SOFTWARE outside the United States or Canada. You agree that you will not directly or indirectly export or re-export the SOFTWARE (or portions thereof) to any country, other than Canada, or to any person or entity subject to U.S. export restrictions without first obtaining a Commerce Department export license or determining that there is an applicable license exception. You warrant and represent that neither the BXA nor any other U.S. federal agency has suspended, revoked, or denied your export privileges. For additional information see <http://www.microsoft.com/exporting/>.

WinXLight 取り扱い説明書

お願い	1
保証について	1
はじめに	2
安全上のご注意	3
使用上のご注意	4
本マニュアルの記載と商標について	5
オプション機器(別売)のご案内	5
株式会社 小松製作所 使用許諾契約書	6

目次

1 準備	14
1-1 電源の用意	14
1-2 電源の投入	14
2 接続環境の設定	15
2-1 イーサネット(本体の LAN)接続の場合	15
2-2 無線 LAN 接続の場合	17
2-2-1 Komatsu 11Mbps Wireless LAN PC Card の設定	17
2-2-2 ORiNOCO Wireless Ethernet Driver の設定	19
2-3 ダイアルアップ接続の場合	21
3 RDP クライアントの設定	24
3-1 RDP 接続エントリを作成する	24
3-2 RDP 接続エントリを変更する	26
3-3 RDP 接続エントリを削除する	26
3-4 RDP 接続エントリを自動起動に設定する	27
3-5 RDP 接続エントリをダイアルアップで使用する	27
3-6 RDP クライアントの接続	28
3-7 RDP クライアントの切断	29
3-8 RDP 接続時のローカルプリンタの使用	30

4 ICA クライアントの設定	32
4-1 ICA 接続エントリを作成する	32
4-2 ICA 接続エントリを変更する	35
4-3 ICA 接続エントリを削除する	35
4-4 ICA 接続エントリを自動起動に設定する	36
4-5 ICA 接続エントリをダイヤルアップで使用する	36
4-6 ICA クライアントの接続	37
4-7 ICA クライアントの切断	38
4-8 ICA 詳細設定	39
4-9 ICA 接続時のローカルプリンタの使用	41
5 コントロールパネルの設定	43
5-1 コントロールパネルの起動	43
5-2 WinXLight 設定	43
5-3 Wireless LAN Setting / Wireless Network	46
5-4 キーボード	46
5-5 システム	46
5-6 スタイラス	47
5-7 ダイヤル	48
5-8 ネットワーク	48
5-9 パスワード	49
5-10 ボリューム&サウンド	49
5-11 マウス	49
5-12 画面	50
5-13 地域	51
5-14 通信	51
5-15 日付／時刻	51

6 便利な機能	52
6-1 設定変更ガード機能.....	52
6-2 ソフトウェアキーボード	53
6-3 クライアントドライブの Storage Card 使用.....	54
6-4 タスクマネージャの起動.....	55
6-5 ネットワーク確認コマンド.....	56
7 周辺機器との接続.....	57
7-1 PHS.....	57
7-2 PS/2 マウス	57
7-3 PS/2 キーボード/テンキーボード	57
7-4 バーコードリーダー	58
7-5 ストレージ機器	58
8 本体各部の外形寸法	59
9 一般仕様.....	60
10 バックライト.....	62
11 タッチパネル.....	63
12 インターフェース仕様	64
12-1 LAN.....	64
12-2 シリアルポート(RS232C-A,B).....	64
12-3 パラレルポート	65
12-4 PS/2	66
13 設置要領	67
13-1 設置.....	67
13-2 電源.....	67
13-3 接地.....	68
13-4 その他の結線.....	68

14	トラブルシューティング	69
15	保守.....	70
15-1	保守.....	70
15-2	お手入れ	70
16	廃棄・処分	71

1 準備

はじめて本装置を使用する場合の設定方法を説明します。設定を実行する前に以下の項目について確認をしてください。

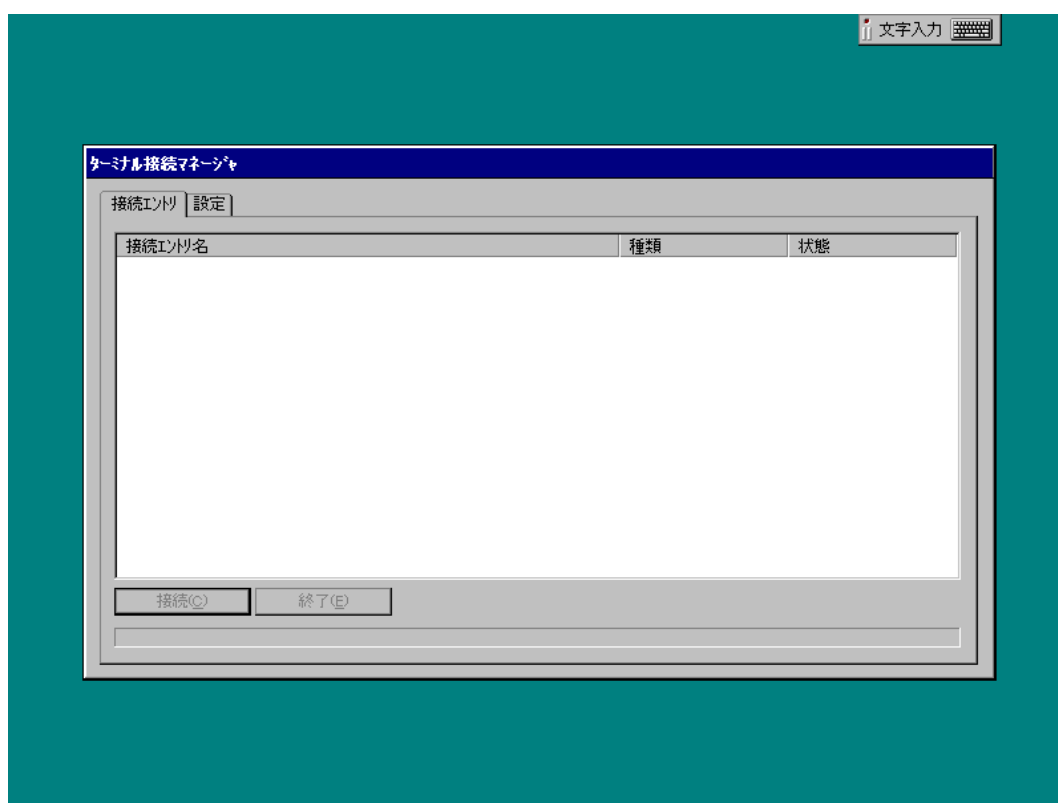
1-1 電源の用意

本装置には専用の AC アダプタと電源ケーブルが付属しております。AC アダプタの出力コネクタを本装置の下側面の AC アダプタ入力に接続してください。

1-2 電源の投入

本装置の電源スイッチを ON にし、WinXLight を立ち上げます。

下図のような「ターミナル接続マネージャ」と「ソフトウェアキーボード呼び出しアイコン」の画面が表示されます。



ターミナル接続マネージャでは、ICA/RDP 接続エントリの設定を行いません。
ソフトウェアキーボード呼び出しアイコンをクリックするとソフトウェアキーボードが表示されます。

2 接続環境の設定

本装置をネットワークに接続するために必要な設定の手順を説明します。

2-1 イーサネット(本体の LAN)接続の場合

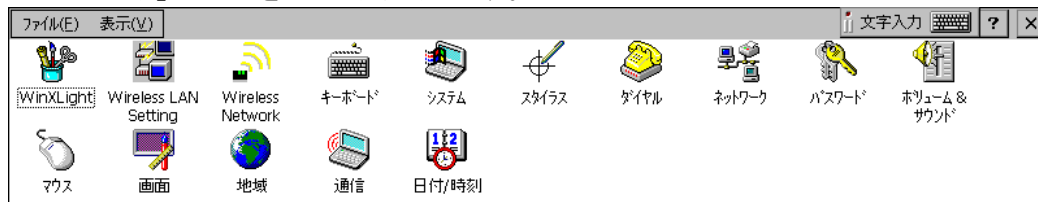
重要

設定を行う前に、「コントロールパネル」-「WinXLight」-「通信/印刷」で「本体の LAN を有効にする」が選択されていることを確認してください。

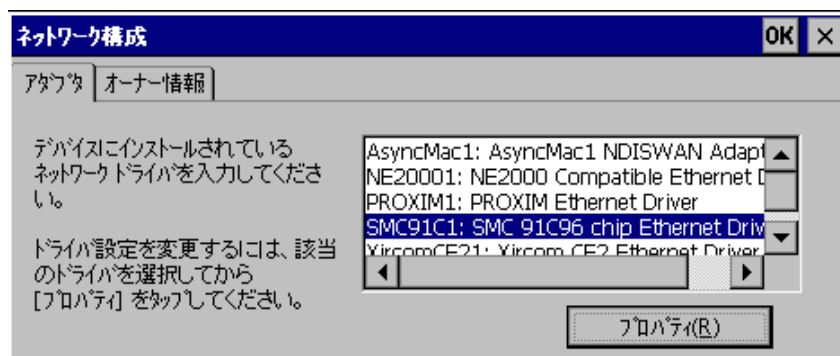
1. ターミナル接続マネージャを「設定」にして、「コントロールパネル」ボタンをクリックします。



2. 「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。



3. 本装置内蔵の有線 LAN を使用する場合には「SMC91C1:SMC91C96 chip Ethernet Driver」を選択します。



- 4. 「IP アドレス」で使用する IP アドレスを設定します。**
DHCP サーバーから IP アドレスを取得することもできます。

SMC 91C96 chip Ethernet Driver の設定

OK X

IP アドレス ネーム サーバー

IP アドレスは DHCP サーバーによって自動的にこのデバイスに割り当てられます。ネットワークが自動的に IP アドレスを割り当てない場合は、ネットワーク管理者に問い合わせるから、アドレスを入力してください。

☒ IP アドレスを DHCP サーバーから取得(Q)

☐ IP アドレスを指定(S)

IP アドレス(A):

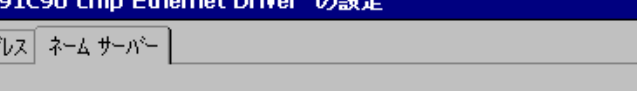
サブネット マスク(U):

既定のゲートウェイ(G):

注意

「IPアドレスをDHCPサーバーから取得」を選択した場合で、DHCPサーバーが起動していないなどの理由でIPアドレスを取得できない場合には以下のメッセージが表示されます。

- 5. 「ネームサーバー」でネームサーバーアドレスを設定し、OK をクリックします。**
DHCP サーバーを使用する場合には、設定する必要はありません。



'SMC 91C96 chip Ethernet Driver' の設定

IP アドレス **ネーム サーバー**

ネーム サーバー アドレスは、DHCP がこのアダプタで使用可能な場合に自動的に割り当てられます。与えられたスペース内に、WINS や DNS の追加もできます。

プライマリ DNS(D):

セカンダリ DNS(N):

プライマリ WINS(W):

セカンダリ WINS(I):

- 6. コントロールパネルを終了し、ターミナル接続マネージャの「設定保存」ボタンをクリックして設定を保存してください。本装置の電源を再起動させると設定した IP アドレスで起動します。**

2-2 無線 LAN 接続の場合

本装置には 2 種類の無線 LAN ドライバと設定用アイコンが搭載されています。
使用できる無線 LAN カードとドライバ・アイコンの組み合わせは以下の通りです。

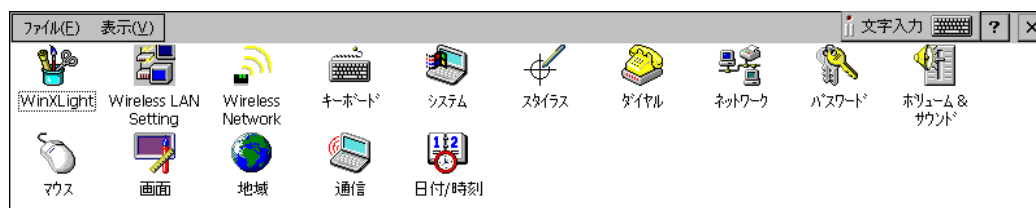
アイコン	ドライバ名	メーカー機種・ブランド	型番
 Wireless LAN Setting	WLAN1: Komatsu 11Mbps Wireless LAN PC Card	コマツ	KC-11B20Z
		PLANEX	GW-NS110PX
		ELECOM	LD-WL11/PCC
 Wireless Network	WLLUC461: ORiNOCO Wireless Ethernet Driver	ORiNOCO	PC24E-H-JP
		メルコ	WLI-PCM-L11
			WLI-PCM-L11G

2-2-1 Komatsu 11Mbps Wireless LAN PC Card の設定

重要

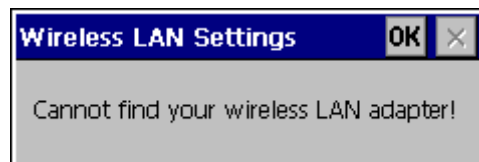
無線 LAN の設定を行う前に、「コントロールパネル」-「WinXLight」-「通信/印刷」で「本体の LAN を無効にする」を選択してください。

1. 使用する無線 LAN カードを挿入します。
ターミナル接続マネージャを「設定」にして、「コントロールパネル」ボタンをクリックし、「Wireless LAN Setting」アイコンをダブルクリックします。

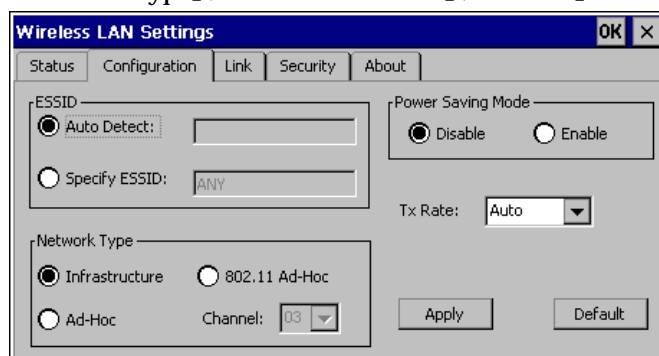


注意

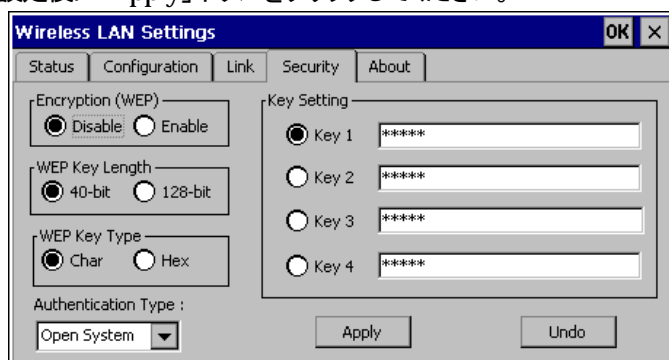
無線 LAN カードを接続しないと設定は行えません。
接続されていない場合、以下のようなエラーが表示されます。



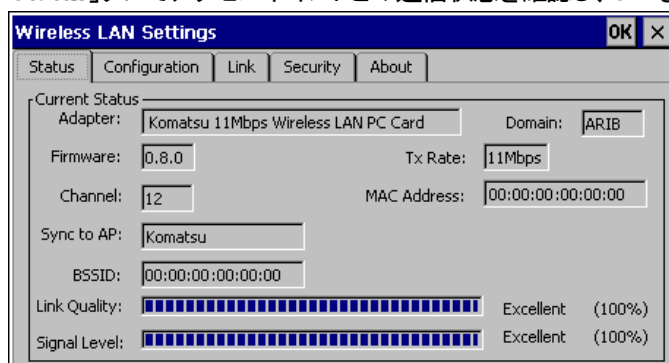
2. 「Configure」タブを選択し、ESSID を設定します。
接続するアクセスポイントを指定しない場合は「Auto Detect」を選択します。
特定のアクセスポイントに接続する場合は「Specify ESSID」を選択し、アクセスポイントの ESSID を入力します。設定後に「Apply」ボタンをクリックしてください。
「Network Type」、「Power Save Mode」、「TxRate」はデフォルトのままご使用ください。



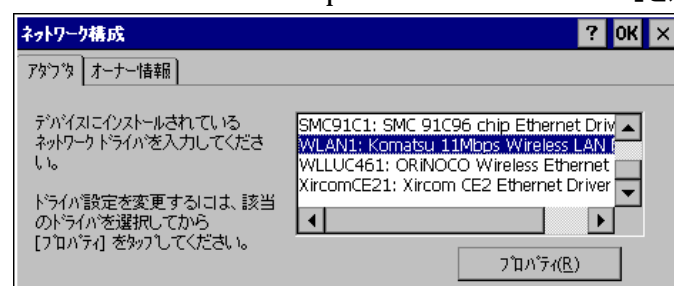
3. 暗号化を使用する場合には「Security」タブを選択し、設定を行ってください。
設定後に「Apply」ボタンをクリックしてください。



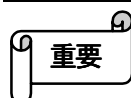
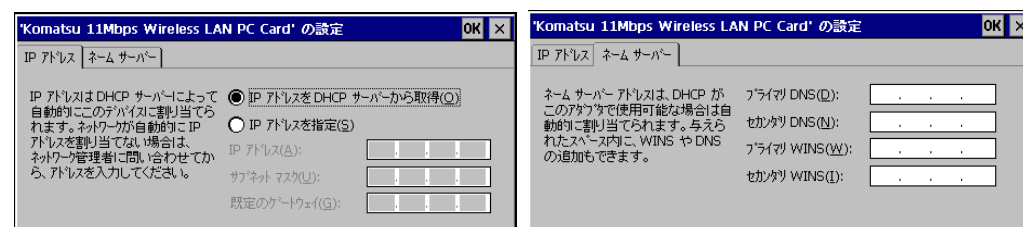
4. 「Status」タブでアクセスポイントとの通信状態を確認し、OK をクリックします。



5. 次に「コントロールパネル」の「ネットワーク」アイコンをダブルクリックし、「WLAN1:KOMATSU 11Mbps Wireless LAN PC Card」を選択します。



6. 「2-1 イーサネット(本体の LAN)接続の場合」と同様に「IP アドレス」と「ネームサーバー」を設定します。



無線LANの場合はできる限り、「IP アドレスを指定」でご使用ください。

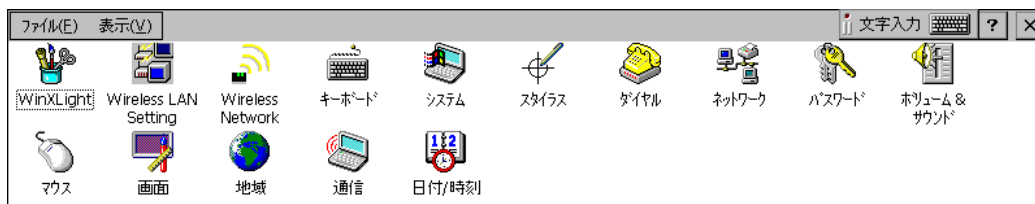
7. コントロールパネルを終了し、ターミナル接続マネージャの「設定保存」ボタンをクリックして設定を保存してください。本装置の電源を再起動させると設定した IP アドレスで起動します。

2-2-2 ORiNOCO Wireless Ethernet Driver の設定

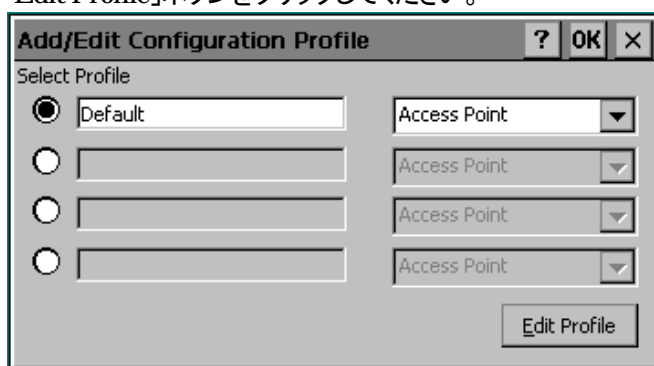
重要

無線 LAN の設定を行う前に、「コントロールパネル」-「WinXLight」-「通信/印刷」で「本体の LAN を無効にする」を選択してください。

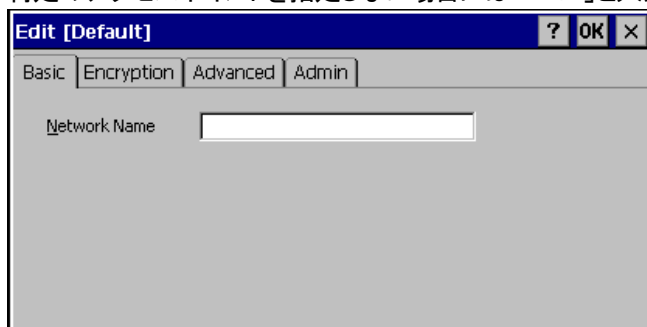
1. ターミナル接続マネージャを「設定」にして、「コントロールパネル」ボタンをクリックし、「Wireless Network」アイコンをダブルクリックします。



2. 「Select Profile」で現在選択されている部分が「Access Point」になっていることを確認して、「Edit Profile」ボタンをクリックしてください。



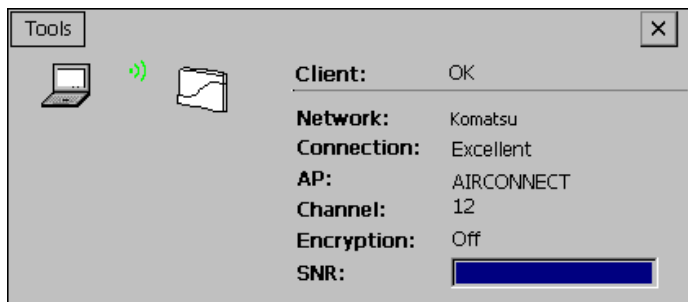
3. 「Basic」タブの「Network Name」に接続するアクセスポイントの名前を入力します。特定のアクセスポイントを指定しない場合には「ANY」と入力してください。



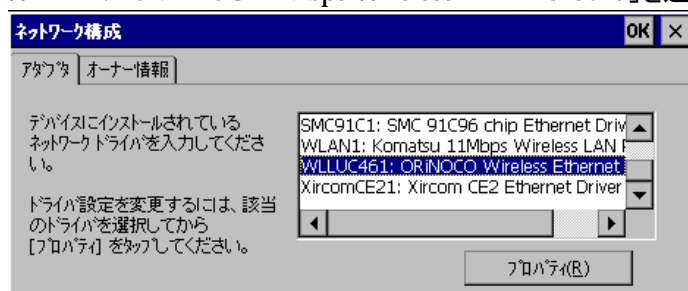
4. 暗号化を設定する場合には「Encryption」タブを選択し、設定を行ってください。その他の詳細な設定に関しては、無線 LAN カードのマニュアルをご覧ください。設定が終了したら OK をクリックします。



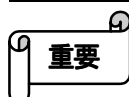
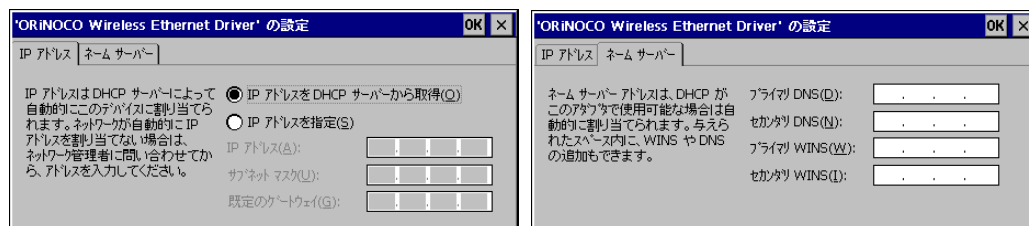
5. 無線 LAN カードを一度抜き差しすると、アクセスポイントとの接続状況を確認できます。



6. 次に「コントロールパネル」の「ネットワーク」アイコンをダブルクリックし、「WLAN1:KOMATSU 11Mbps Wireless LAN PC Card」を選択します。



7. 「2-1 イーサネット(本体の LAN)接続の場合」と同様に「IP アドレス」と「ネームサーバー」を設定します。



重要

無線LANの場合はできる限り、「IP アドレスを指定」でご使用ください。

8. コントロールパネルを終了し、ターミナル接続マネージャの「設定保存」ボタンをクリックして設定を保存してください。本装置の電源を再起動させると設定した IP アドレスで起動します。

2-3 ダイアルアップ接続の場合

**注意**

本装置ではダイアルアップ接続を行った場合に、その接続を切断するには本装置の電源を OFF する以外に方法がありません。

また、モデム設定の「DTR: データ端末レディ」は「ON から OFF で回線を切る」を選択してください。

**注意**

一度ダイアルアップ接続を行うと、その接続がポートを占有してしまいます。

複数のダイアルアップ接続を作成し、他の接続に切り替えたい場合は本装置の電源を再起動する必要があります。

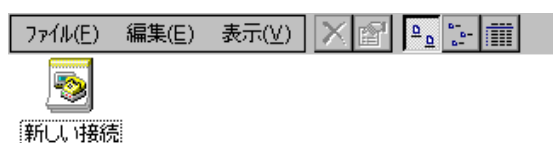
**重要**

ダイアルアップ接続設定を行う前に、「コントロールパネル」-「WinXLight」-「通信/印刷」で「本体の LAN を無効にする」を選択してください。

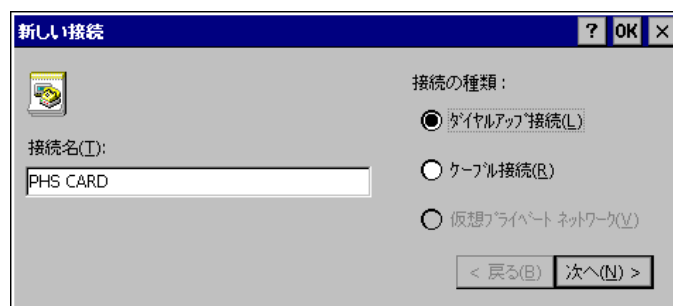
1. ターミナル接続マネージャを「設定」にして、「ダイアルアップ」ボタンをクリックします。



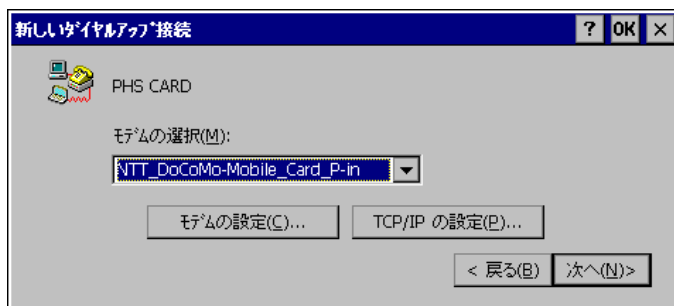
2. 「新しい接続」アイコンをダブルクリックします。



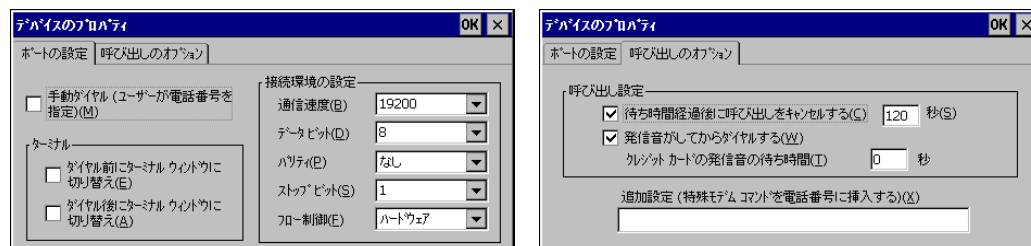
3. 「接続名」に接続するダイアルアップ名を入力し、「接続の種類」で「ダイアルアップ接続」を選択します。



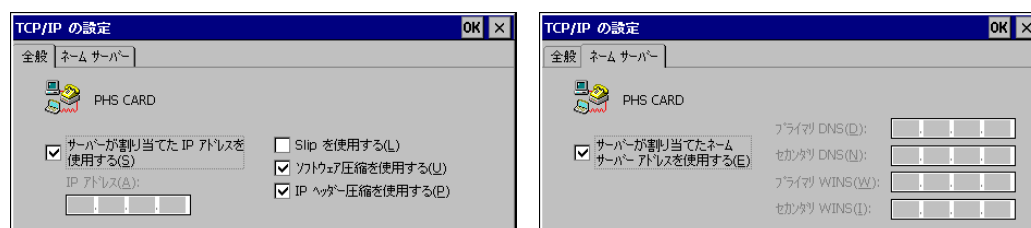
4. 「モデムの選択」で使用するモデム、PHS カードを選択します。



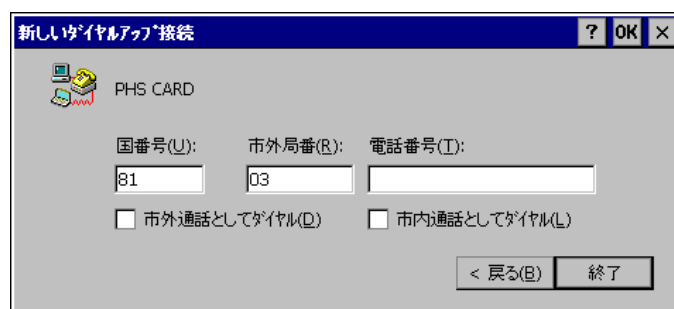
5. 「モデム設定」ボタンをクリックし、必要に応じて設定を行います。



6. 「TCP/IP の設定」ボタンをクリックし、必要に応じて設定を行います。



7. 接続先の「国番号」、「市外局番」、「電話番号」を入力します。
また、アクセスポイントによって、「市外／市内通話としてダイヤル」をチェックします。PHS カードを使用する場合には「市外通話としてダイヤル」を選択する必要があります。



8. 「接続名」で指定した名前のアイコンが作成されていることを確認します。
作成したアイコンをダブルクリックします。



9. 「ユーザ名」、「パスワード」、「ドメイン」を入力します。

10. 「ダイヤルのプロパティ」ボタンをクリックし、「発信元」と「電話回線の設定」を確認します。 「発信元」は内線電話などで電話番号の前に「0」を付ける必要があれば「勤務先」に、「0」を付ける必要がなければ「自宅」を選択してください。

11. 「ダイヤルアップ接続」ダイアログに戻り、「接続」ボタンをクリックします。 ダイヤル接続を開始し、「接続完了」と表示されれば接続成功です。

すぐにダイヤルアップ接続をしない場合には「切断」ボタンをクリックしてください。

注意 接続の際に「キャリアが検出されませんでした」や「ダイヤル先の PC が応答しません」と表示された場合は、接続の設定を再確認してください。
設定に間違いのない場合には、もう一度接続を行ってください。

注意 「隠す」を選択した場合は、本装置の電源を切るまで接続を終了させることはできません。

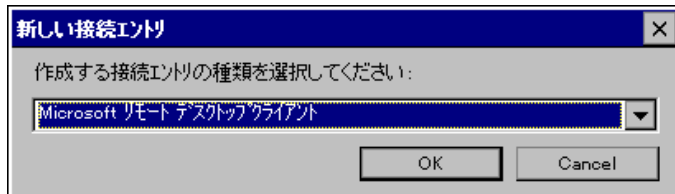
12. コントロールパネルを終了し、ターミナル接続マネージャの「設定保存」ボタンをクリックして設定を保存してください。

3 RDP クライアントの設定

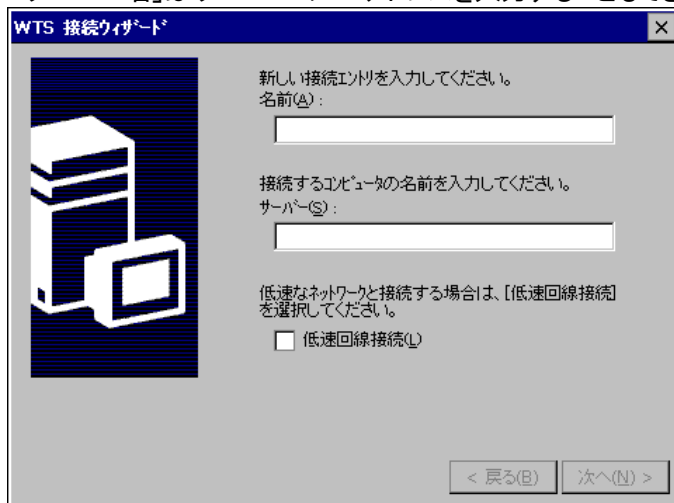
本装置を RDP クライアントとして使用する場合の設定手順を説明します。

3-1 RDP 接続エントリを作成する

1. ターミナル接続マネージャの「設定」で「追加」ボタンをクリックします。
2. 「Microsoft リモートデスクトップクライアント」を選択します。



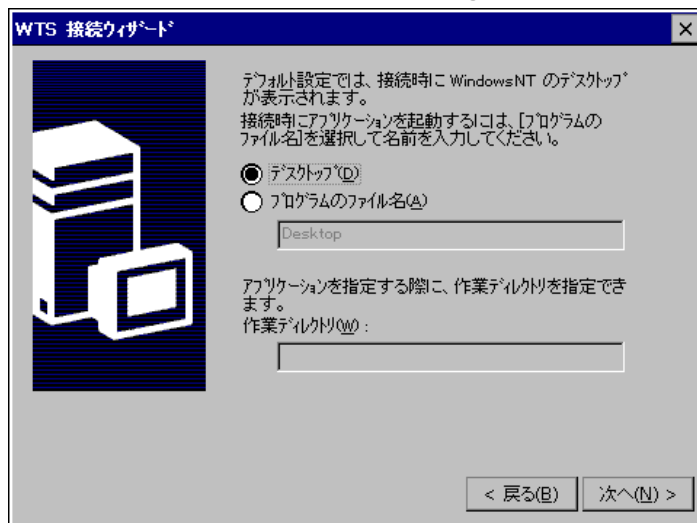
3. 接続エントリの「名前」と「サーバー名」を入力します。
「サーバー名」はサーバーの IP アドレスを入力することもできます。



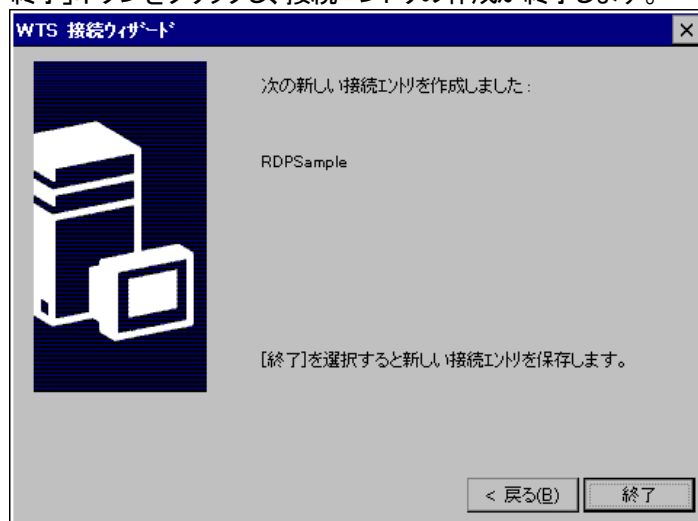
4. 自動ログオンを使用する場合には、「自動ログオン」をチェックして「ユーザ名」、「パスワード」、「ドメイン」を入力します。



5. サーバーへの接続時にデスクトップを表示するか、アプリケーションを起動するかを設定します。
 アプリケーションを起動する場合は「プログラムのファイル名」と「作業ディレクトリ」を入力します。
 アプリケーションを実行する際の入力例)
- プログラムのファイル名 : WINWORD.EXE
 - 作業ディレクトリ : C:¥Program Files¥Microsoft Office¥Office



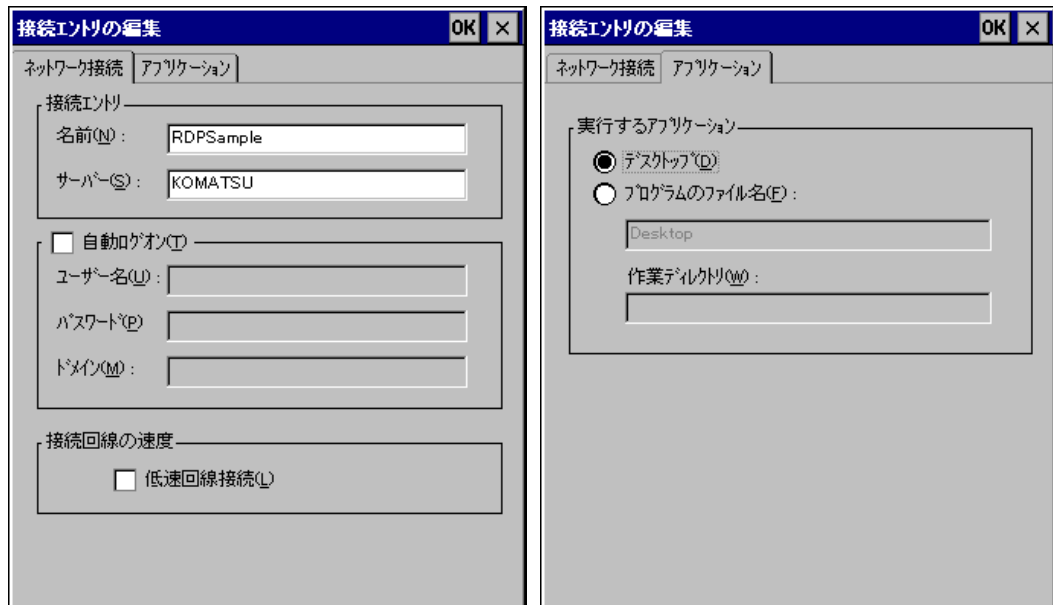
6. 「終了」ボタンをクリックし、接続エントリの作成が終了します。



7. ターミナル接続マネージャの「設定保存」ボタンをクリックして作成した接続エントリを保存します。

3-2 RDP 接続エントリを変更する

1. ターミナル接続マネージャの「設定」で設定を変更する RDP 接続エントリを選択し、「編集」ボタンをクリックします。
2. 変更が終了したら「OK」ボタンをクリックします。



3. ターミナル接続マネージャの「設定保存」ボタンをクリックして変更した接続エントリを保存します。

3-3 RDP 接続エントリを削除する

1. ターミナル接続マネージャの「設定」で削除する RDP 接続エントリを選択し、「削除」ボタンをクリックします。
2. 「はい」ボタンをクリックすると接続エントリが削除されます。

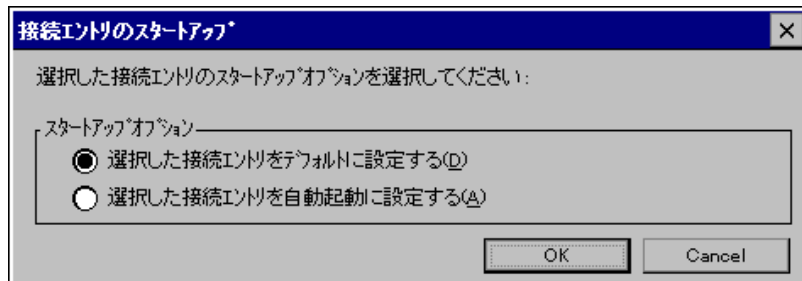


3. ターミナル接続マネージャの「設定保存」ボタンをクリックして削除したことを記憶させます。

3-4 RDP 接続エントリを自動起動に設定する

本装置の電源立ち上げ時に自動的に選択した接続エントリを起動させることができます。

1. ターミナル接続マネージャの「設定」で自動起動する RDP 接続エントリを選択し、「スタートアップ」ボタンをクリックします。
2. 「選択した接続エントリを自動起動に設定する」を選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。



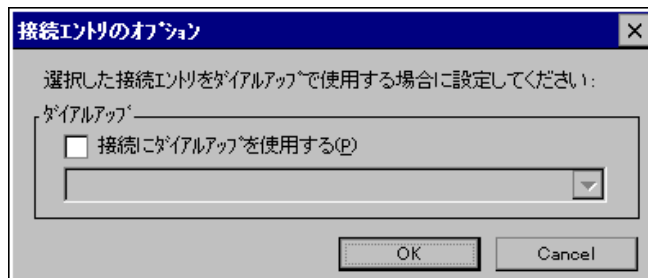
3. ターミナル接続マネージャの「設定保存」ボタンをクリックして設定を保存します。

3-5 RDP 接続エントリをダイヤルアップで使用する

この設定は接続エントリをダイヤルアップで使用する場合にのみ使用します。

この設定を行う前に、「2-3 ダイヤルアップ接続の場合」の手順でダイヤルアップ接続を作成しておいてください。

1. ターミナル接続マネージャの「設定」でダイヤルアップで使用する RDP 接続エントリを選択し、「オプション」ボタンをクリックします。
2. 「接続にダイヤルアップを使用する」をチェックし、使用するダイヤルアップ接続を選択します。



3. 「OK」ボタンをクリックします。
4. ターミナル接続マネージャの「設定保存」ボタンをクリックし設定を保存します。

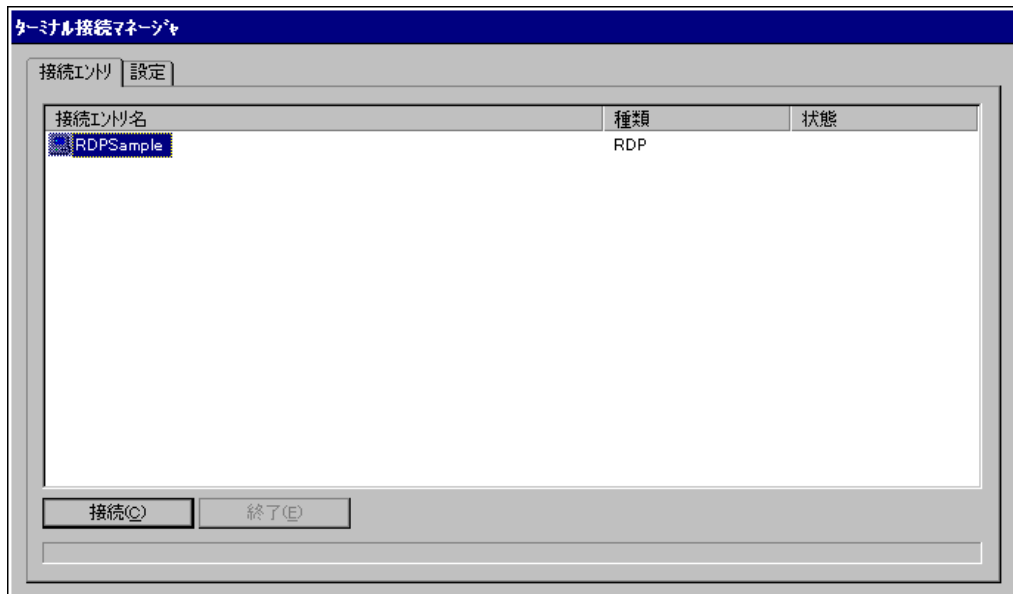
3-6 RDP クライアントの接続

作成した接続エントリでサーバーに RDP クライアントとして接続を行います。

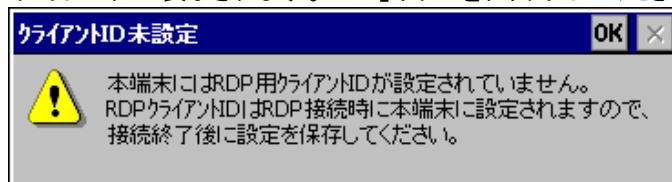
重要

RDP クライアントとしてサーバーに接続した場合のクライアント名はデフォルトで「WinXLight」+「本体の MAC アドレスの下 6 桁」が設定されています。
クライアント名を変更する場合には、コントロールパネルの「通信」の「デバイス名」を変更してください。
詳しくは「5-14 通信」をご覧ください。

1. ターミナル接続マネージャの「接続エントリ」で接続する RDP 接続エントリを選択し、「接続」ボタンをクリックします。(RDP 接続エントリのダブルクリックでも起動できます。)



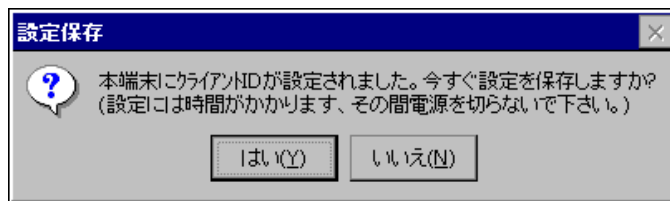
2. 本端末を初めて RDP クライアントとしてサーバーに接続した場合には、「クライアント ID 未設定」ダイアログが表示されます。「OK」ボタンをクリックしてください。



重要

このダイアログは本端末が初めて RDP クライアントとして接続する場合にのみ表示されます。
また、このダイアログが表示された場合には、サーバーとの接続を終了するまで本体の電源を切らないでください。

3. サーバーとの接続を終了すると「設定保存」ダイアログが表示されますので、「はい」ボタンをクリックしてください。



重要 このダイアログは本端末が初めて RDP クライアントとしての接続を終了した場合に表示されます。

また、この設定保存を行わずに本体の電源を切った場合には、1台の端末で複数の TSCAL (Terminal Service Access License) を消費してしまう可能性があります。

注意 設定の間違いやサーバーとの接続の問題などで、初めての RDP クライアントとしての接続に失敗した場合にも RDP クライアント ID は本体に設定されます。この場合も「設定保存」ダイアログが表示されますので、「はい」ボタンをクリックして設定を保存してください。

3-7 RDP クライアントの切断

接続中の RDP クライアントをログオフすることなく切断します。

ターミナル接続マネージャの「接続エントリ」で切断する RDP 接続エントリを選択し、「終了」ボタンをクリックします。

注意 通常操作では「終了」ボタンが有効(押せる状態)になることはありません。

重要 この操作により切断した RDP 接続エントリに再度接続するとセッションを切断した状態から運用を開始します。

3-8 RDP 接続時のローカルプリンタの使用

RDP セッションでは Windows2000 サーバーに接続している場合には、RDP クライアントに接続されたプリンタ(ローカルプリンタ)から印刷することができます。



接続しているサーバーが WindowsNT4.0TSE の場合には RDP セッションでローカルプリンタを使用できません。

1. Windows2000 サーバー側に使用するプリンタのドライバを用意します。



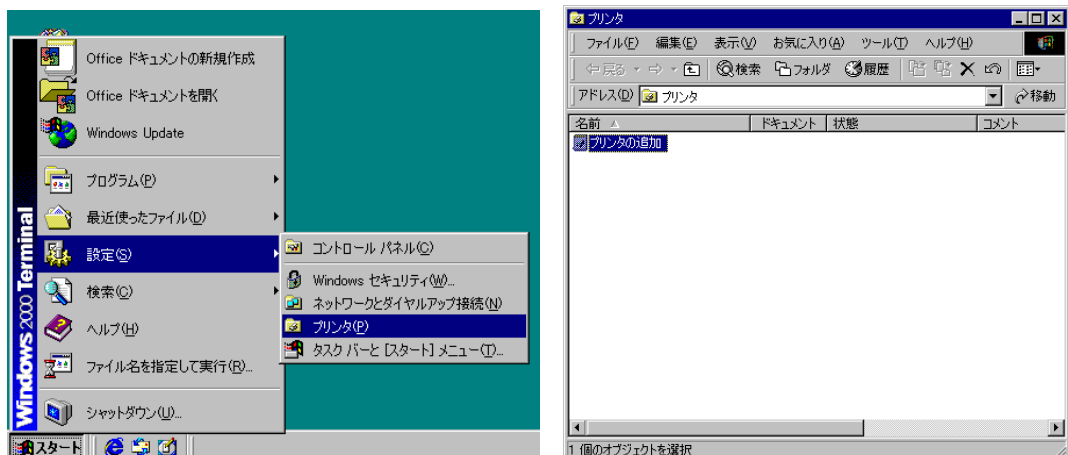
プリンタドライバは WindowsCE 用のドライバではなく、Windows2000 用のドライバを用意してください。

2. 本装置を RDP クライアントとして Windows2000 サーバーと接続します。
接続後に RDP クライアントから「スタート」-「プログラム」-「管理ツール」-「ターミナルサービス構成」を起動してください。

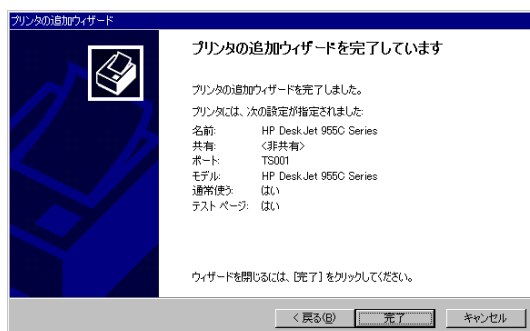
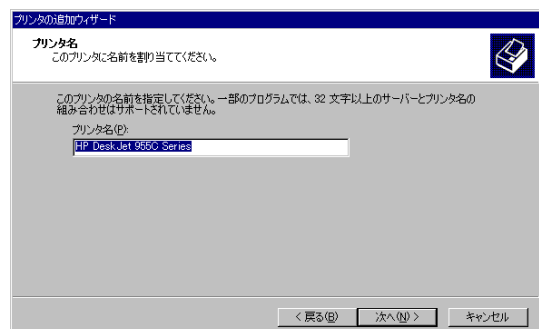
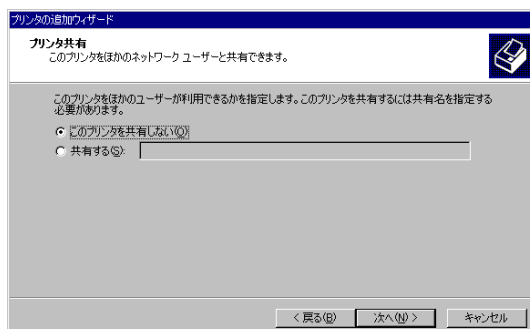
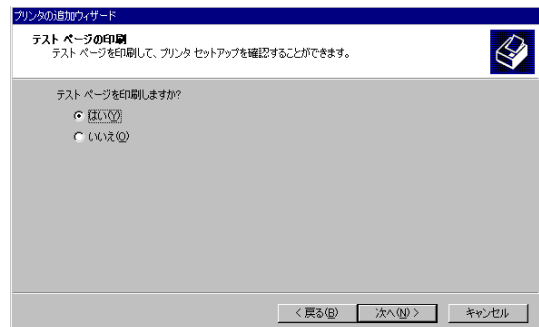
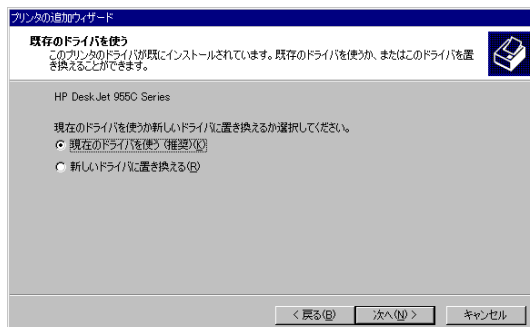
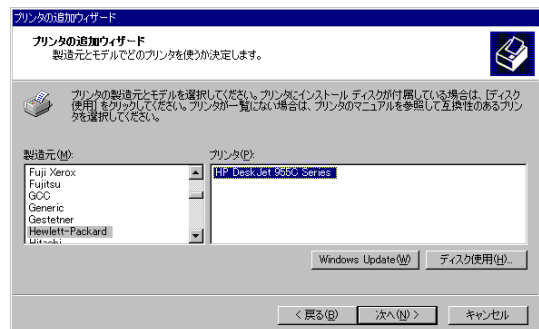
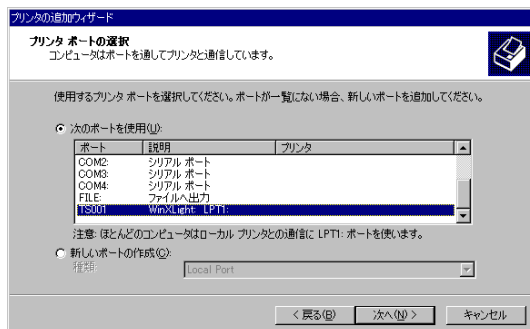
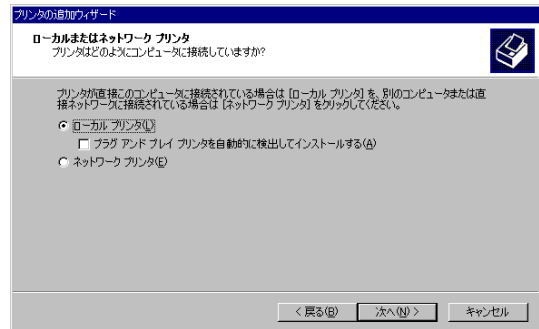
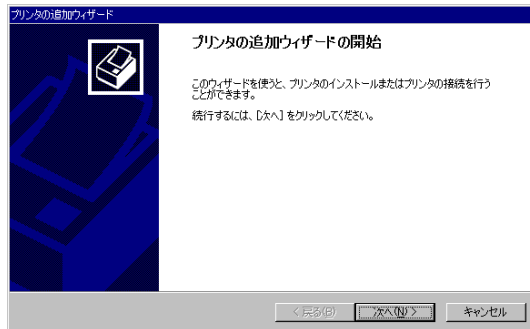


「ツリー」の「ターミナルサービス構成」から「接続」を選択し、「RDP-Tcp」をダブルクリックして「RDP-Tcp のプロパティ」ダイアログを表示させてください。
ここでは、特に「クライアントの設定」部分の設定項目を確認してください。

3. 次に RDP クライアントから「スタート」-「設定」-「プリンタ」を起動し、「プリンタの追加」をダブルクリックします。



4. 「プリンタの追加ウィザード」が起動します。
下記図を参考にしてローカルプリンタの設定を行ってください。

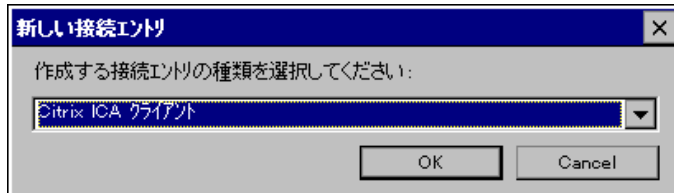


4 ICA クライアントの設定

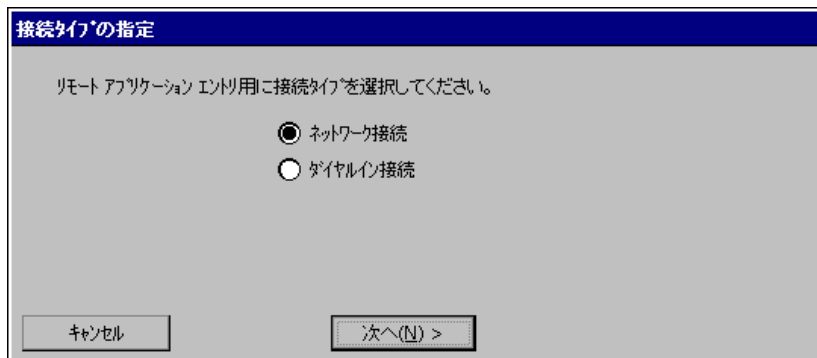
本装置を ICA クライアントとして使用する場合は設定手順を説明します。

4-1 ICA 接続エントリを作成する

1. ターミナル接続マネージャの「設定」で「追加」ボタンをクリックします。
2. 「Citrix ICA クライアント」を選択します。

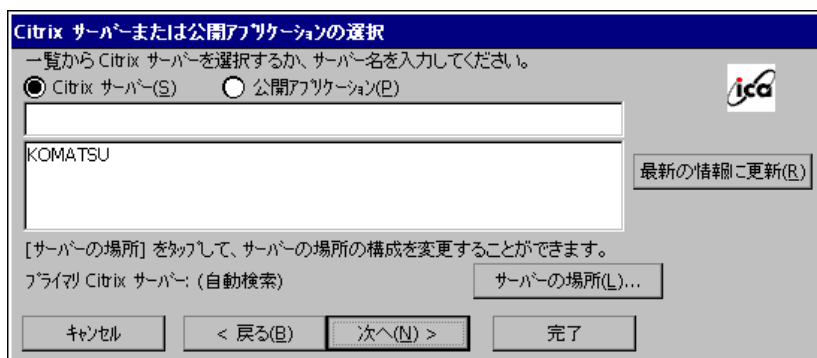


3. Citrix サーバーへの接続タイプを選択します。
ここで「ネットワーク接続」を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。



重要 「2-3 ダイアルアップ接続の場合」の手順でダイヤルアップ接続を行なった場合には、「ネットワーク接続」になります。
「ダイヤルイン接続」は上記設定を行なわず、モデムから直接 Citrix サーバーに接続する方法で、本装置では「ダイヤルイン接続」をサポートしていません。

4. 「Citrix サーバーを検索中」と表示されます。
ローカルネットワーク上に Citrix サーバーが存在している場合は接続可能な Citrix サーバー一覧が表示されます。



異なるネットワークに存在する Citrix サーバーの一覧は表示されませんので、「サーバーの場所」ボタンをクリックして Citrix サーバーの場所を設定してください。
「Citrix サーバー」か「公開アプリケーション」を選択し、Citrix サーバーかアプリケーションをクリックします。「次へ」ボタンをクリックします。

5. 接続エントリの名前(タイトル)を入力し、「次へ」ボタンをクリックします。

ICA 接続のタイトルの選択

ICA 接続のタイトルを選択してください。

ICASample

キャンセル < 戻る(B) 次へ(N) > 完了

6. Citrix サーバーとの接続時にアプリケーションを実行する場合は、「コマンドライン」と「作業ディレクトリ」を指定します。何も入力しなければデスクトップが表示されます。
 なお、「公開アプリケーション」を選択した場合にはこの画面は表示されません。
 「次へ」ボタンをクリックします。

アプリケーションの指定

コマンドラインと作業ディレクトリを指定して、アプリケーションを実行することができます。これらのフィールドを空白にすると、Windows NT デスクトップが実行されます。

コマンドライン:

作業ディレクトリ:

キャンセル < 戻る(B) 次へ(N) > 完了

7. 自動ログオンの設定をします。何も入力しなければ Citrix サーバーとの接続時に「ユーザー名」と「パスワード」の入力を求められます。
 「次へ」ボタンをクリックします。

ログオン情報の指定

リモート アプリケーションの接続に使用するログオン情報を指定できます。

ユーザー名:

パスワード:

ドメイン:

注意: アプリケーションが「匿名」の公開アプリケーションの場合、ここで指定するログオン情報は無視されます。

キャンセル < 戻る(B) 次へ(N) > 完了

8. ウィンドウの表示色数を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。

ウィンドウ オプションの選択

デスクトップでのアプリケーション ウィンドウの表示方法を指定します。

ウィンドウの色

☐ 16 色 ☒ 256 色

キャンセル < 戻る(B) 次へ(N) > 完了

9. 印刷、圧縮、キャッシュ、暗号化、サウンドを設定し、「次へ」ボタンをクリックします。

- プリンタ構成ツールを使用
チェックされている場合には、Citrix サーバーのプリンタ構成ツールを ICA クライアントから設定できます。
- データストリームの圧縮
チェックされている場合には、Citrix サーバーとのデータ転送量を低減します。
接続の帯域幅に制限がある場合は、圧縮によりパフォーマンスが向上する場合があります。
十分な帯域幅がある場合は、圧縮をかけない方が Citrix サーバーの処理力を節約できます。
- キャッシュ
この機能はサポートしていません。
- サウンドを有効にする
本装置は現在音声を出力しない仕様になっていますので、チェックしないでください。
- 暗号化レベル
現在では使用できません。

10. ファイヤーウォールの設定をします。

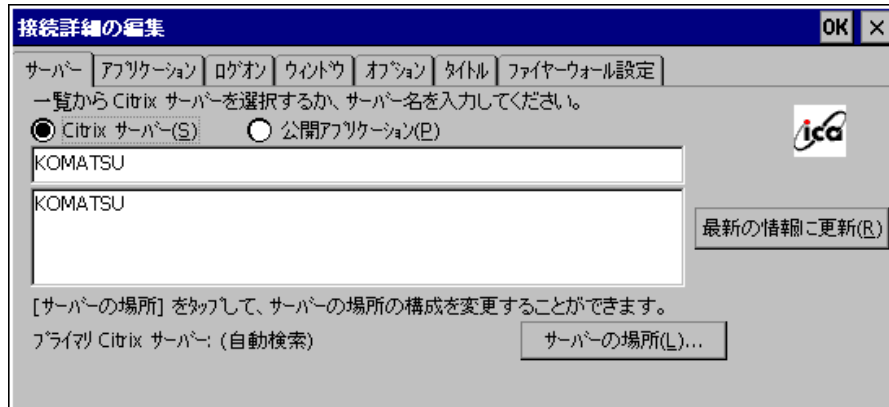
- ファイヤーウォール接続時に代替アドレスを使う
ICA クライアントがネットワークアドレス変換を行うファイヤーウォールの外側にある場合、この項目を有効にする必要があります。この設定は SOCKS プロキシサーバーを使用していない場合も必要です。
- SOCKS プロキシ経由で接続する
SOCKS プロキシサーバーを使用する場合はこの項目をチェックし、「使用プロキシのアドレス」と「ポート」を設定してください。

11. 「完了」ボタンをクリックし、接続エントリの作成が終了します。

12. ターミナル接続マネージャの「設定保存」ボタンをクリックして作成した接続エントリを保存します。

4-2 ICA 接続エントリを変更する

1. ターミナル接続マネージャの「設定」で設定を変更する ICA 接続エントリを選択し、「編集」ボタンをクリックします。
2. 変更が終了したら「OK」ボタンをクリックします。



3. ターミナル接続マネージャの「設定保存」ボタンをクリックして変更した接続エントリを保存します。

4-3 ICA 接続エントリを削除する

1. ターミナル接続マネージャの「設定」で削除する ICA 接続エントリを選択し、「削除」ボタンをクリックします。
2. 「はい」ボタンをクリックすると接続エントリが削除されます。

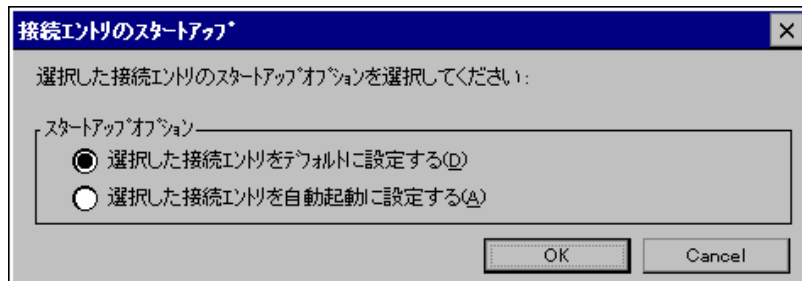


3. ターミナル接続マネージャの「設定保存」ボタンをクリックして削除したことを記憶させます。

4-4 ICA 接続エントリを自動起動に設定する

本装置の電源立ち上げ時に自動的に選択した接続エントリを起動させることができます。

1. ターミナル接続マネージャの「設定」で自動起動する ICA 接続エントリを選択し、「スタートアップ」ボタンをクリックします。
2. 「選択した接続エントリを自動起動に設定する」を選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。



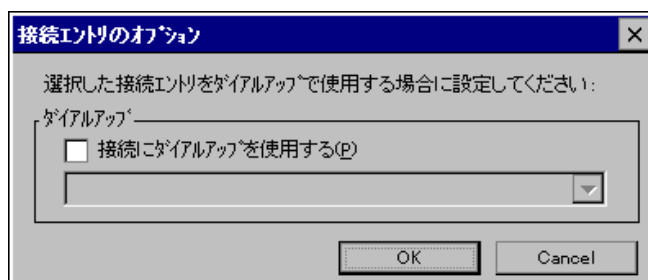
3. ターミナル接続マネージャの「設定保存」ボタンをクリックして設定を保存します。

4-5 ICA 接続エントリをダイヤルアップで使用する

この設定は接続エントリをダイヤルアップで使用する場合にのみ使用します。

この設定を行う前に、「2-3 ダイヤルアップ接続の場合」の手順でダイヤルアップ接続を作成しておいてください。

1. ターミナル接続マネージャの「設定」でダイヤルアップで使用する ICA 接続エントリを選択し、「オプション」ボタンをクリックします。
2. 「接続にダイヤルアップを使用する」をチェックし、使用するダイヤルアップ接続を選択します。
3. 「OK」ボタンをクリックします。



4. ターミナル接続マネージャの「設定保存」ボタンをクリックし設定を保存します。

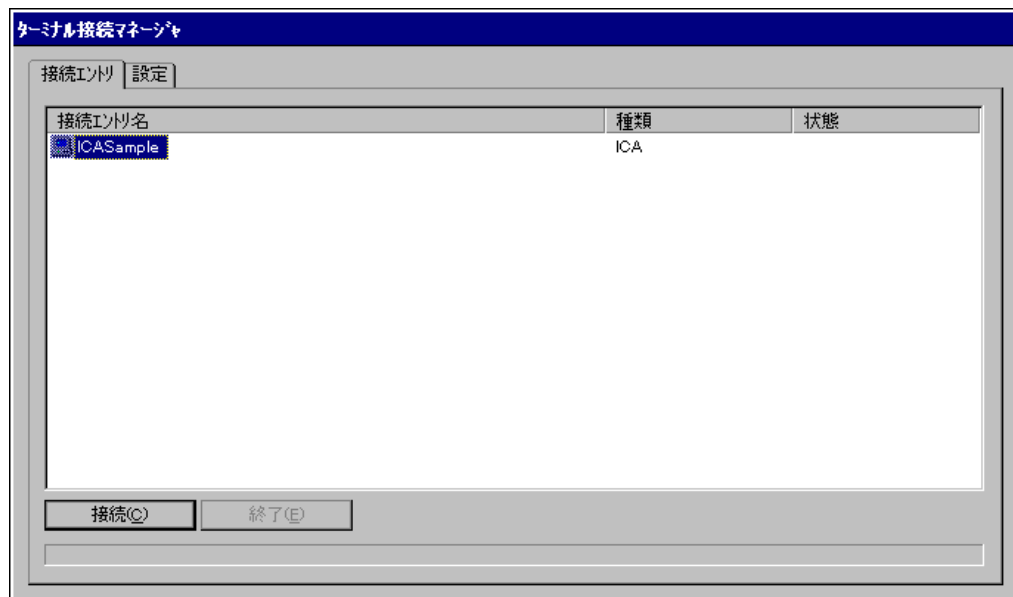
4-6 ICA クライアントの接続

作成した接続エントリでサーバーに ICA クライアントとして接続を行います。

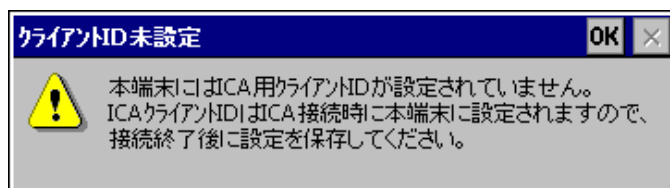
重要

ICA クライアントとしてサーバーに接続した場合のクライアント名はデフォルトで「WinXLight」+「本体の MAC アドレスの下 6 桁」が設定されています。
クライアント名を変更する場合には「ICA 詳細設定」の「クライアント名」を変更してください。
詳しくは「4-8 ICA 詳細設定」をご覧ください。

1. ターミナル接続マネージャの「接続エントリ」で接続する ICA 接続エントリを選択し、「接続」ボタンをクリックします。(ICA 接続エントリのダブルクリックでも起動できます。)



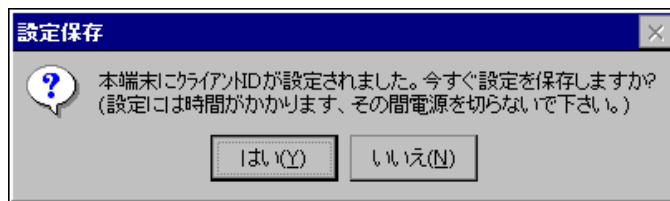
2. 本端末を初めて ICA クライアントとしてサーバーに接続した場合には、「クライアント ID 未設定」ダイアログが表示されます。「OK」ボタンをクリックしてください。



重要

このダイアログは本端末が初めて ICA クライアントとして接続する場合にのみ表示されます。
また、このダイアログが表示された場合には、サーバーとの接続を終了するまで本体の電源を切らないでください。

3. サーバーとの接続を終了すると「設定保存」ダイアログが表示されますので、「はい」ボタンをクリックしてください。



このダイアログは本端末が初めて ICA クライアントとしての接続を終了した場合に表示されます。

また、この設定保存を行わずに本体の電源を切った場合には、1 台の端末で複数の TSCAL (Terminal Service Access License) を消費してしまう可能性があります。



設定の間違いやサーバーとの接続の問題などで、初めての ICA クライアントとしての接続に失敗した場合にも ICA クライアント ID は本体に設定されます。

この場合も「設定保存」ダイアログが表示されますので、「はい」ボタンをクリックして設定を保存してください。

4-7 ICA クライアントの切断

接続中の ICA クライアントをログオフすることなく切断します。

ターミナル接続マネージャの「接続エントリ」で切断する ICA 接続エントリを選択し、「終了」ボタンをクリックします。



通常操作では「終了」ボタンが有効(押せる状態)になることはありません。



この操作により切断した ICA 接続エントリに再度接続するとセッションを切断した状態から運用を開始します。

4-8 ICA 詳細設定

すべての ICA 接続エントリに適用される設定の変更方法を説明します。

ターミナル接続マネージャの「設定」で「ICA 詳細設定」ボタンをクリックし、設定を行います。

設定を変更した場合には、ターミナル接続マネージャの「設定保存」ボタンをクリックし設定を保存してください。

- 既定のホットキー

ICA クライアントのホットキーとして使用するキーの設定を行います。

既定のホットキー	基本設定	サーバーの場所	ファイアウォール設定
接続状況ダイアログ	[Dropdown]	6	Ctrl+Esc
リモートアプリケーションの終了	[Dropdown]	2	Alt+Esc
タイトルバーの表示/非表示	[Dropdown]	3	Alt+Tab
Ctrl+Alt+Del	[Dropdown]	4	Alt+BackTab



ホットキーはデフォルト状態ではすべて解除されています。

設定変更後に解除する場合には「コントロールパネル」-「WinXLight」-「ターミナル接続」で「ICA ホットキーを無効にする」ボタンをクリックしてください。

名前	説明
接続状況ダイアログ	ICA クライアントの接続状況を表示します。
リモートアプリケーションの終了	ICA クライアントを Citrix サーバーから切断し、ローカルデスクトップのクライアントウィンドウを閉じます。このホットキーを使用すると ICA セッションは Citrix サーバー上で切断された状態で実行し続けます。セッションを切断した状態で実行し続けたくない場合は、ログオフしてください。
タイトルバーの表示/非表示	ICA クライアントウィンドウのタイトルバーを表示/非表示切り替えます。
Ctrl + Alt + Del	Citrix サーバー上で「WindowsNT セキュリティ」ダイアログボックスを表示します。
Ctrl + Esc	MetaFrame サーバーの場合は Windows のスタートメニューを表示します。
Alt + Esc	ICA セッション内で実行しているアプリケーションや最小化されたアイコンの中でフォーカスを循環させます。
Alt + Tab	ICA セッション内のすべてのアプリケーションを順次切り替えます。
Alt + BackTab	「Alt + Tab」と逆方向にアプリケーションを順次切り替えます。

- 基本設定

通常のウィンドウ色とクライアント名を設定します。

- シリアル番号

MetaFrame サーバーに接続する場合には設定する必要はありません。

- 通常のウィンドウ色

Citrix サーバー接続時の表示色数を設定します。

- クライアント名

クライアントデバイスの名前を設定します。

本装置ではデフォルトで「WinXLight」+「本体の MAC アドレスの下 6 桁」が設定されています。Citrix サーバーは固有なクライアント名を使って特定のクライアントデバイスと関連したリソース（割り当てられるプリンタなど）を識別します。

よって、クライアント名は CitrixICA クライアントを実行している各コンピュータごとに固有の名前を設定する必要があります。

固有のクライアント名を使用しないとデバイスマッピングとアプリケーションの公開機能が正しく動作しない場合があります。

- サーバーの場所

ここで指定された情報を使って、使用可能な Citrix サーバーと公開アプリケーションを検索します。

- ファイヤーウォール設定

SOCKS プロキシと代替アドレス再割り当てを使用するようにクライアントを構成できます。

4-9 ICA 接続時のローカルプリンタの使用

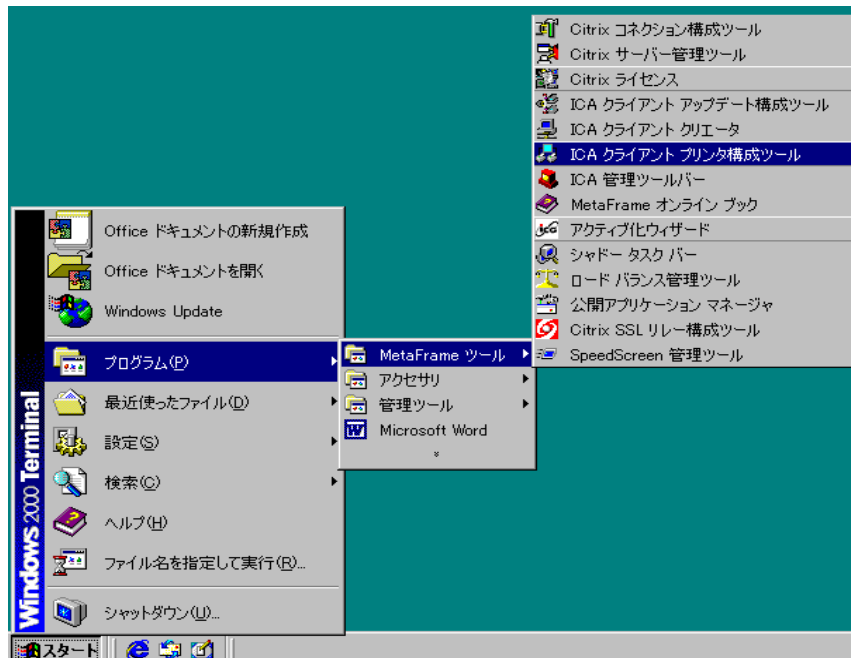
ICA セッションでは Citrix サーバーのプリンタだけでなく、ICA クライアントに接続されたプリンタ(ローカルプリンタ)から印刷することができます。

1. Citrix サーバー側に使用するプリンタのドライバを用意します。

注意 プリンタドライバは WindowsCE 用のドライバではなく、Citrix サーバー側の OS (WindowsNT4.0TSE/Windows2000)用のドライバを用意してください。

2. 本装置を ICA クライアントとして Citrix サーバーと接続します。
接続後に ICA クライアントから次の手順で「ICA クライアントプリンタ構成ツール」を起動します。

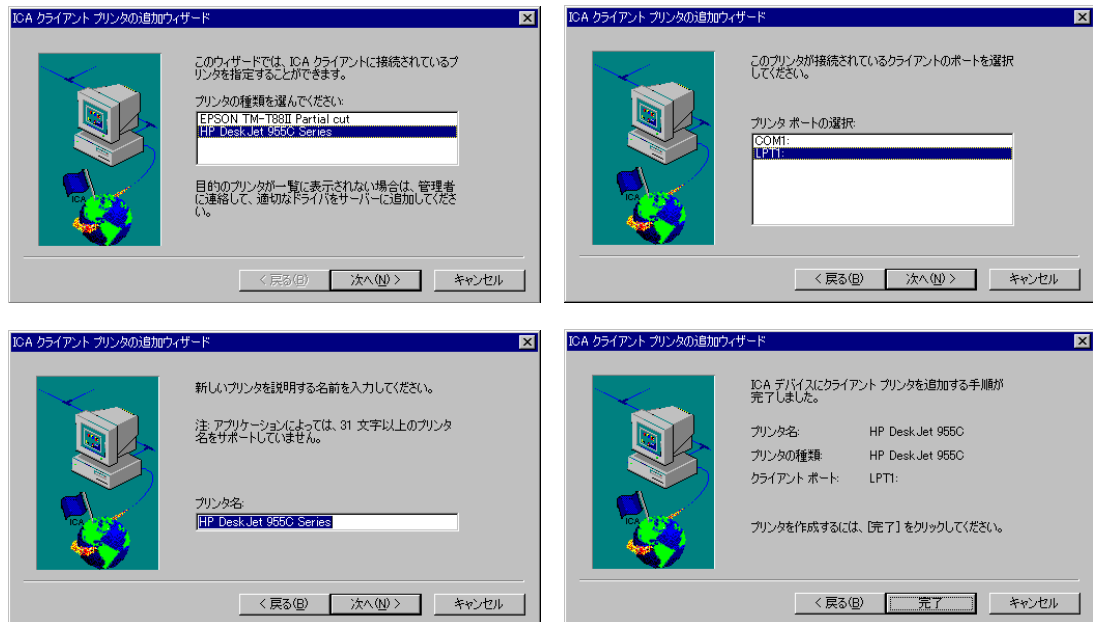
- WindowsNT4.0TSE の場合:
「スタート」-「プログラム」-「MetaFrame 管理ツール(共通)」-「ICA クライアントプリンタ構成ツール」
- Windows2000 Server の場合:
「スタート」-「プログラム」-「MetaFrame ツール」-「ICA クライアントプリンタ構成ツール」



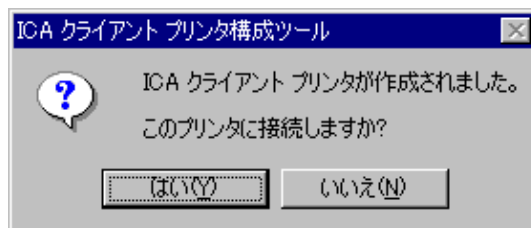
3. 「ICA クライアントプリンタ構成ツール」ウィンドウが表示されます。
「プリンタ」-「新規」を実行します。



4. 「ICA クライアント プリンタの追加ウィザード」が起動します。
使用するプリンタの選択、プリンタポートの選択、プリンタ名の入力を行い、「完了」ボタンをクリックします。



5. 設定したプリンタに接続する場合には「はい」ボタンを、接続しない場合には「いいえ」ボタンをクリックします。



5 コントロールパネルの設定

本装置を使用する際の基本的な使用環境の設定や、本装置のハードウェア、システムなどに関する各種の調節を行うことができます。本章ではその主要な設定の説明をします。

重要 設定を変更した場合には必ずターミナル接続マネージャの「設定」で「設定保存」ボタンをクリックし、設定を保存してください。
また、変更した項目によっては本装置の電源を再起動する必要があります。

5-1 コントロールパネルの起動

ターミナル接続マネージャの「設定」で「コントロールパネル」ボタンをクリックすると、コントロールパネルが起動します。ウィンドウ内の各アイコンをクリックするとその項目を設定する為のダイアログが表示されます。

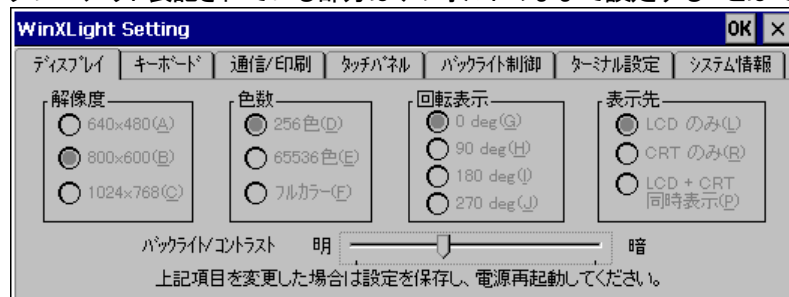
5-2 WinXLight 設定



WinXLight をダブルクリックすると WinXLight Setting ダイアログが表示されます。
ここで本装置固有の設定を行います。

- ディスプレイ

バックライト／コントラスト(明るさ)はスライダーを動かすことで変更できます。
グレースアウト表記されている部分はデフォルトのままでは設定することはできません。



- キーボード

外付けキーボード設定では、使用するキーボードの種類と本装置起動時の NumLock 設定を行うことができます。

ソフトウェアキーボード設定では、使用するソフトウェアキーボードの種類(フルキーボード/テンキー)やテンキーのサイズを設定します。

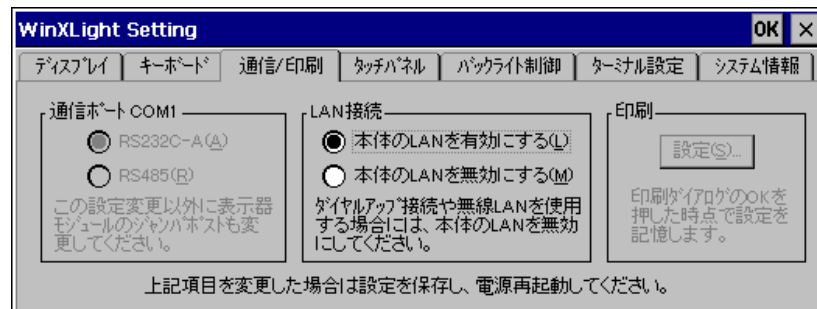


注意

ソフトウェアキーボードを使用した場合には、外付けキーボードの種類は強制的に 106 日本語キーボードに設定されます。

- 通信／印刷

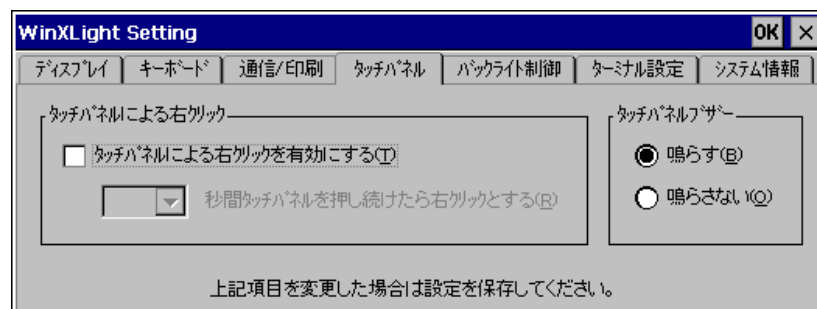
通信／印刷タブをクリックして表示されるダイアログでは、LAN 接続の設定を行うことができます。LAN 接続を有線で行うか、無線で行うかの選択ができます。



無線LAN使用時やダイヤルアップ接続時は必ず「本体のLANを無効にする」にチェックを入れてください。

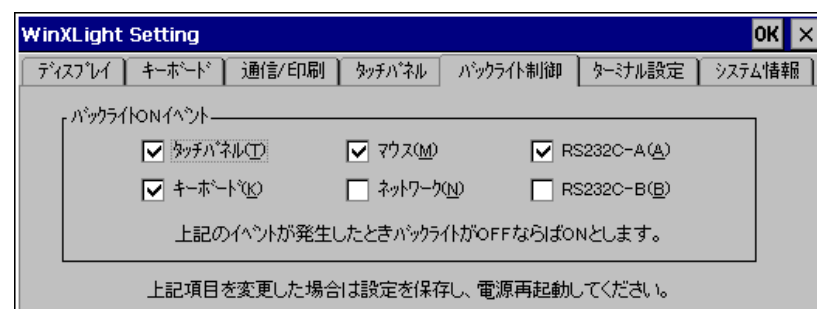
- タッチパネル

タッチパネルによる右クリック入力やブザー音の設定を行うことができます。



- バックライト制御

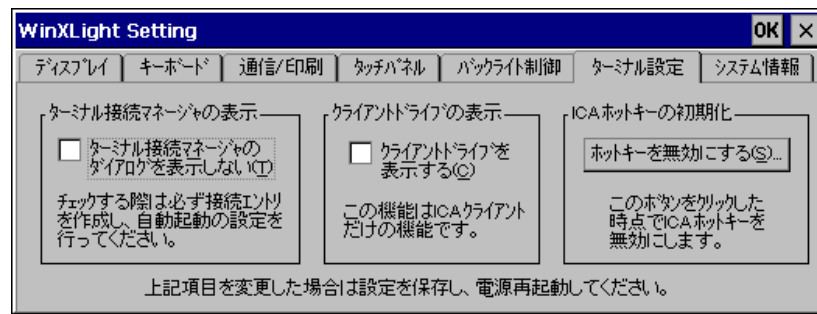
「コントロールパネル」-「画面」-「バックライト」で「バックライトを自動的に消す」設定になっていた場合のバックライトを ON させるイベント設定を行ないます。



「バックライトの制御」ですべてのパラメータを OFF にした状態でバックライトが消灯した場合には電源再起動による復帰しかできません。

● ターミナル設定

ICA/RDP クライアントとして接続する際の設定を行います。



➤ ターミナル接続マネージャの表示

ICA/RDP 接続を自動起動に設定している場合に使用してください。

この設定をチェックすると本装置の電源立ち上げ後にターミナル接続マネージャのダイアログを表示せずに ICA/RDP が起動します。

また、ICA/RDP 接続を終了した場合にもターミナル接続マネージャが表示されません。

重要

ターミナル接続マネージャのダイアログを非表示状態から表示に切り替える場合には、タスクマネージャを起動して「control.exe」を実行し、このチェックをはずしてください。

詳しくは、「6-4 タスクマネージャの起動」をご覧ください。

➤ クライアントドライブの表示

この設定をチェックすると ICA クライアント接続をした際に、本装置のローカルドライブをクライアントドライブとして割り当てます。

重要

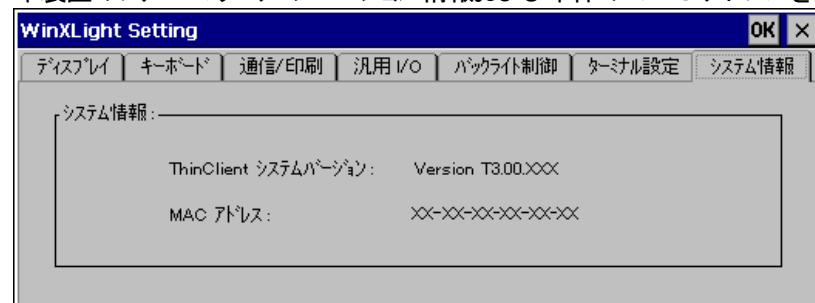
本装置のローカルドライブは「Client」の C\$ として表示されます。また、ドライブの割り当ては Citrix サーバー側で行います。

➤ ICA ホットキーの初期化

「ホットキーを無効にする」ボタンをクリックすると、ターミナル接続マネージャの「ICA 詳細設定」-「既定のホットキー」で設定されたものを解除します。

● システム情報

本装置のファームウェアのバージョン情報および本体の MAC アドレスを確認できます。



5-3 Wireless LAN Setting / Wireless Network

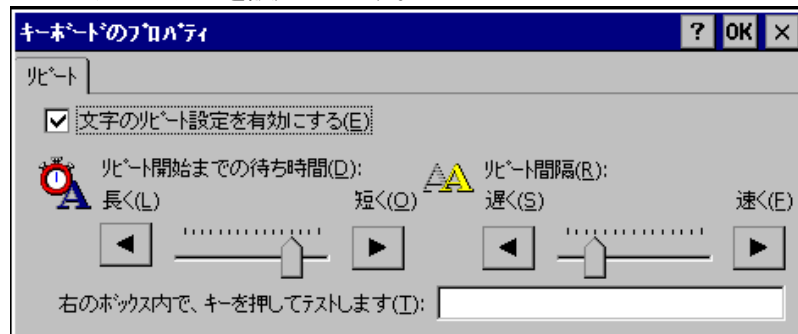
無線 LAN の設定を行います。

「Wireless LAN Setting」は「Komatsu 11Mbps Wireless LAN PC Card」の設定、
「Wireless Network」アイコンは「ORiNOCO Wireless Ethernet Driver」の設定です。
詳しくは「2-2 無線 LAN 接続の場合」をご覧ください。

5-4 キーボード



をダブルクリックするとキーボードのプロパティダイアログが表示されます。
文字のリピート入力を設定できます。



注意

この設定はソフトウェアキーボードには適用されません。

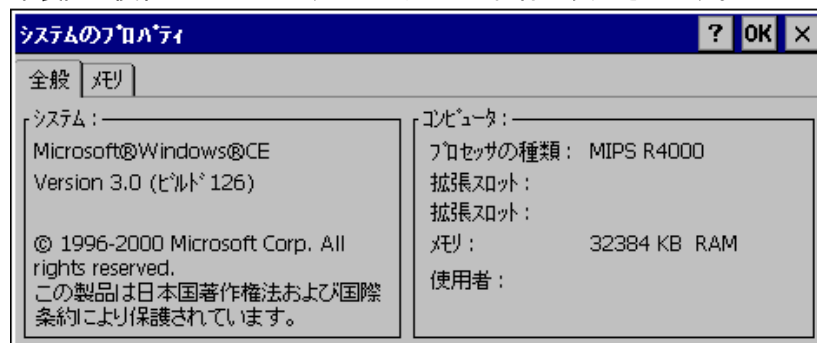
5-5 システム



をダブルクリックすると、システムのプロパティダイアログが表示されます。

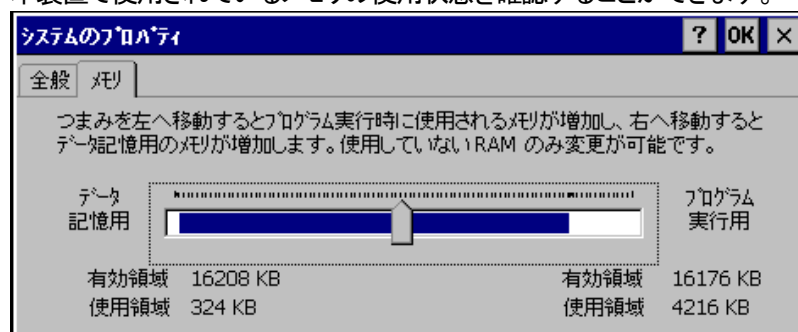
● 全般

本装置に使われている OS、ハードウェアの仕様が表示されます。



● メモリ

本装置で使用されているメモリの使用状態を確認することができます。



なお、本装置ではメモリの用途割合を変更する必要はありません。

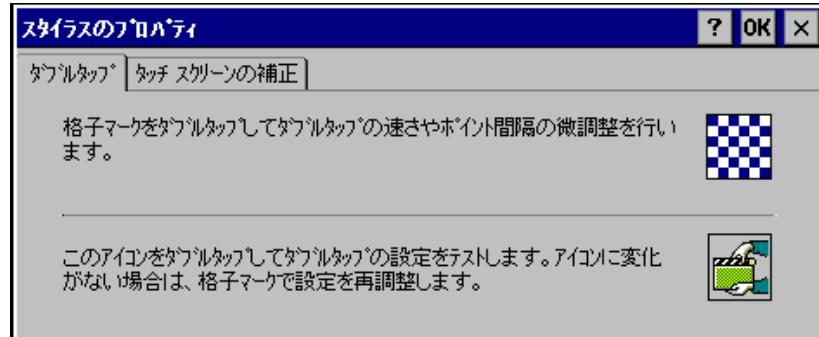
5-6 スタイラス



をダブルクリックすると、スタイラスのプロパティダイアログが表示されます。

● ダブルタップ

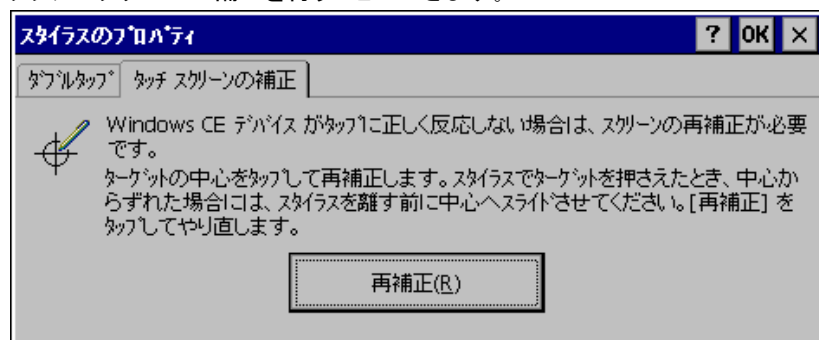
ここではダブルタップの速さの調整およびその設定をテストすることができます。



注意 ダブルクリックの調整を行うとダブルタップが入りづらくなる場合があります。なるべくデフォルトのままで使用してください。

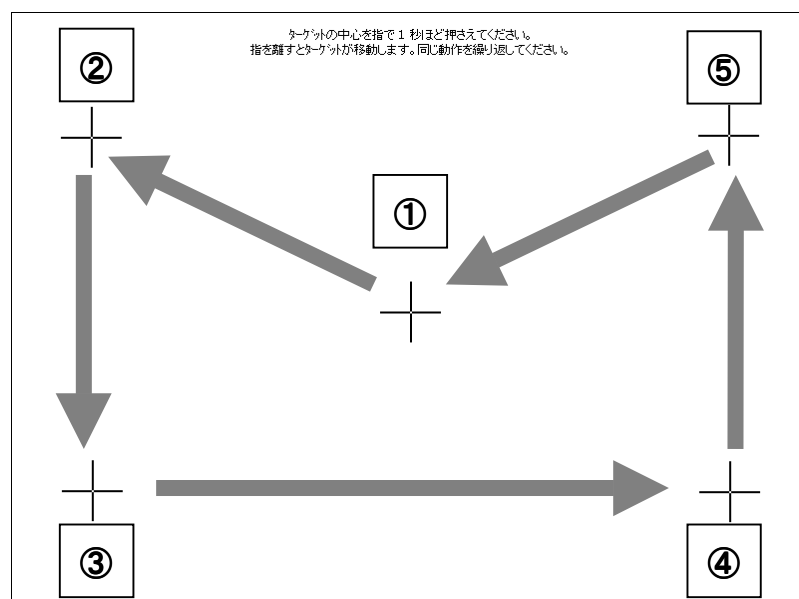
● タッチスクリーンの補正

タッチスクリーンの補正を行うことができます。



➤ 補正手順

1. 表示される「+」の中心を①～⑤の順にクリックします。
2. 「+」が画面中央に戻り、「新しい補正内容を設定しました。画面をタップすると、新しい設定内容が登録されます。」と表示されたらタッチパネルをクリックします。



5-7 ダイアル



ダイヤルをダブルクリックするとダイヤルのプロパティダイアログが表示されます。
ダイヤル方式についての設定を行います。

5-8 ネットワーク



ネットワークをダブルクリックするとネットワーク構成ダイアログが表示されます。

● アダプタ

ネットワークに接続するための IP アドレス、ネームサーバーアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを設定します。

なお、本装置内蔵の有線 LAN を使用する場合には「SMC91C1」を設定してください。

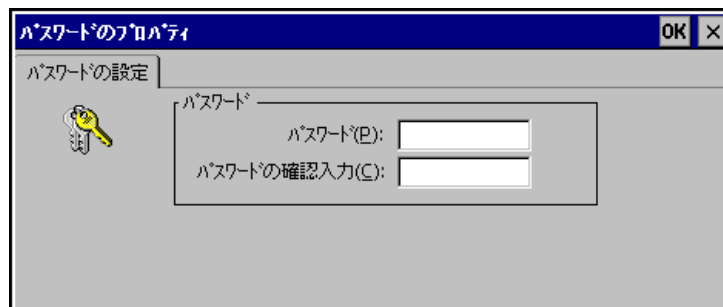
● オーナー情報

ダイヤルアップ接続時、リモートネットワークに接続するためにご契約のプロバイダのパスワード、ユーザーID、ドメイン名を設定します。

5-9 パスワード



パスワードをダブルクリックするとパスワードのプロパティダイアログが表示されます。



パスワードを設定するとターミナル接続マネージャに「パスワード」ボタンが表示され、設定を変更する際にパスワード入力が必要になります。



重要

パスワードを設定する場合、以下の制限事項があります。

- パスワード入力可能文字は 40 文字です。
- パスワードは大文字、小文字を区別しません。

5-10 ボリューム&サウンド



ボリューム&サウンドをダブルクリックするとボリューム&サウンドのプロパティダイアログを表示します。



注意

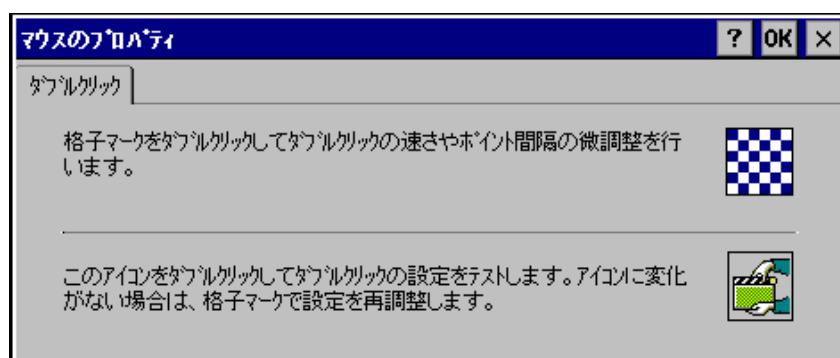
本装置は現在音声を出力しない仕様になっています。
この設定は将来の拡張用です。

5-11 マウス



マウスをダブルクリックするとマウスのプロパティダイアログを表示します。

ここでは WindowsCE 上のマウスのダブルクリックの速度の速さを設定することができます。



5-12 画面



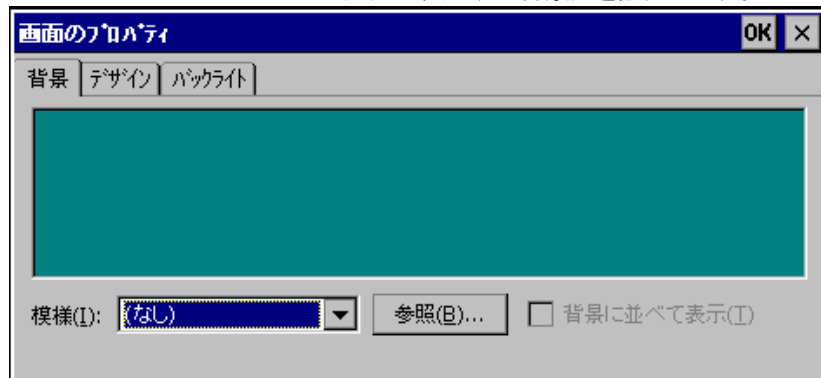
画面

をダブルクリックすると画面のプロパティダイアログを表示します。

WindowsCE 上の画面表示設定を行います。

- 背景

WindowsCE 上のデスクトップ画面に表示する背景画を設定します。



注意

「模様」は Storage Card 上のビットマップを設定しないでください。

- デザイン

「配色」を設定することで WindowsCE 上のウィンドウやダイアログの色を変更することができます。

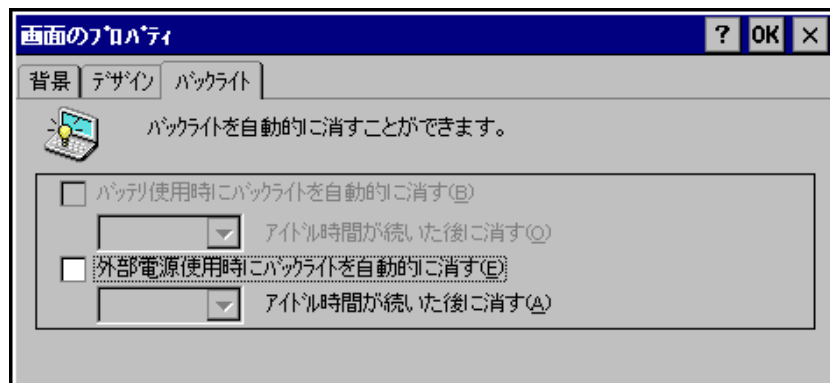


注意

ソフトウェアキーボードの呼び出しアイコンの配色の変更はできません。

- バックライト

バックライトを自動消灯する時間を指定します。



5-13 地域



地域 をダブルクリックすると地域のプロパティダイアログを表示します。
WindowsCE 上での地域、数値、通貨、時刻、日付の設定を行います。

5-14 通信



通信 をダブルクリックすると通信のプロパティダイアログを表示します。

- デバイス名

ここでは RDP 接続時のデバイス名(端末名)を指定します。

- PC との接続

ここでは、ホストコンピューターとの接続方法、通信速度を変更できます。
通信速度を変更した場合は、コンピュータ側も同一速度にしてください。

5-15 日付 / 時刻



日付/時刻 アイコンをダブルクリックすると日付/時刻プロパティダイアログを表示します。
WindowsCE 上での現在の日付／時刻の設定を行います。

6 便利な機能

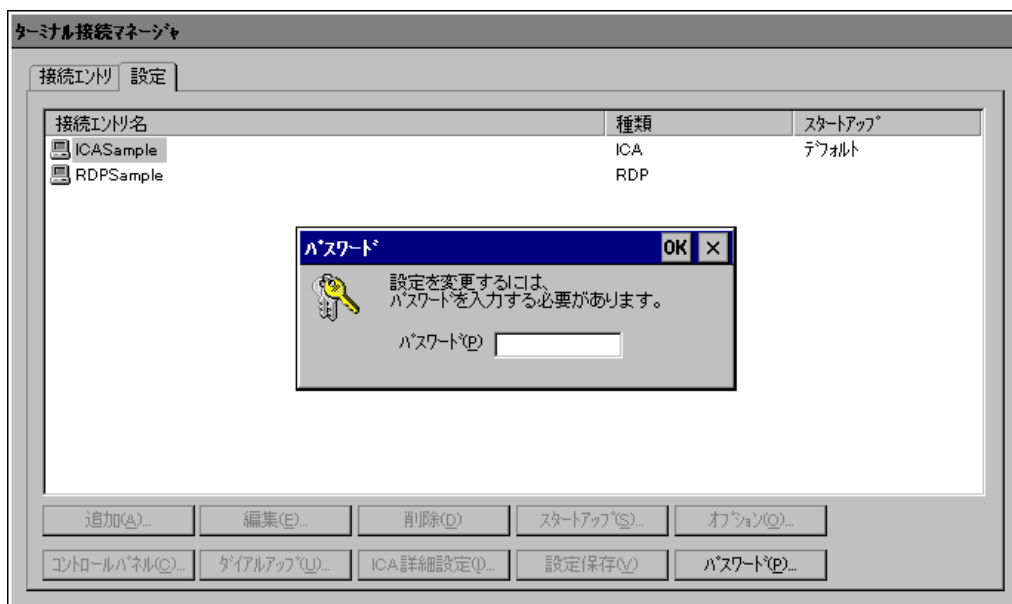
シンクライアント端末として、本装置特有の機能および操作方法を説明します。

6-1 設定変更ガード機能

本装置では、エンドユーザに ICA/RDP 接続エントリを安易に変更させない方法として、以下の2つの方法を用意しています。

1. パスワードによるガード

「コントロールパネル」-「パスワード」を設定することで、ICA/RDP 接続エントリの変更をパスワードでガードすることができます。



参考

パスワードに関する注意事項は、「5-9 パスワード」をご覧ください。

2. ターミナル接続マネージャダイアログの非表示

「コントロールパネル」-「WinXLight」-「ターミナル設定」を設定することで、ターミナル接続マネージャを表示することなく ICA/RDP 接続を起動させることができます。

また、ICA/RDP 接続を終了した場合にもターミナル接続マネージャが表示されません。

本装置使用者にシンクライアント端末を意識させたくない場合にご利用ください。



注意

この設定を行う場合には必ず ICA/RDP 接続エントリを自動起動に設定してください。



重要

ターミナル接続マネージャのダイアログを非表示状態から表示に切り替える場合には、タスクマネージャを起動して「control.exe」を実行してください。詳しくは、「6-4 タスクマネージャの起動」をご覧ください。

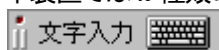


参考

ターミナル接続マネージャの非表示設定は、「5-2 WinXLight 設定」の「ターミナル設定」をご覧ください。

6-2 ソフトウェアキーボード

本装置では2種類のソフトウェアキーボードを標準搭載しています。

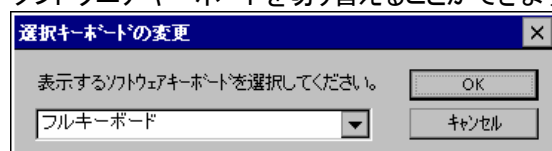


アイコンのキーボード部分をクリックしてください。



ソフトウェア呼び出しアイコンを表示させたくない場合やデフォルトで表示するソフトウェアキーボードを変更する場合には、「5-2 WinXLight 設定」の「キーボード」を設定してください。

また、ソフトウェア呼び出しアイコン部分でマウスの右クリックを行うと、途中でソフトウェアキーボードを切り替えることができます。



1. フルキーボード

106 日本語対応のソフトウェアキーボードです。



キーをクリックするとソフトウェアキーボード自身が上下に移動します。



キーをクリックするとソフトウェアキーボードが終了します。



外付けキーボードと同時に操作しないでください。
同時操作すると NumLock や CapsLock が表示と違う動作をする場合があります。

2. テンキー



キーをクリックするとテンキー自身が左右に移動します。



キーをクリックするとテンキーが終了します。

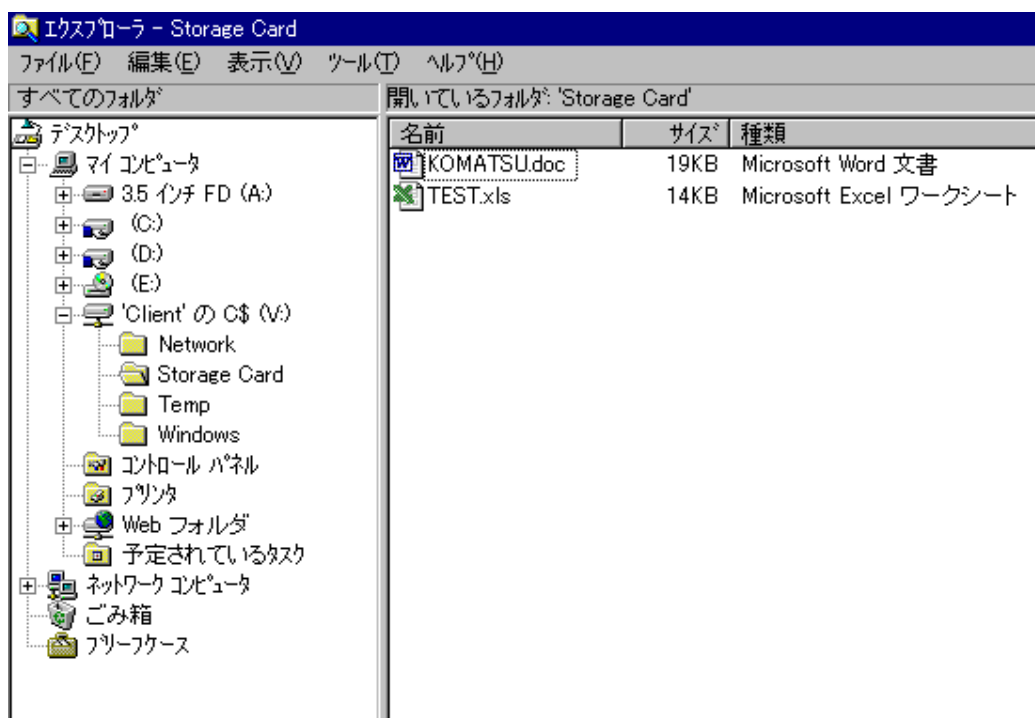


「5-2 WinXLight 設定」の「キーボード」でテンキーの大きさを変更することができます。

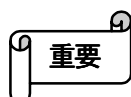
6-3 クライアントドライブの Storage Card 使用

本装置は PCMCIA インターフェースを所有しています。

クライアントドライブを表示させる設定にして ICA クライアント接続した場合に、本装置の PCMCIA インターフェースに Storage Card を挿入し、データの入出力を行うことができます。



クライアントドライブの表示設定は、「5-2 WinXLight 設定」の「ターミナル設定」をご覧ください。



本装置のローカルドライブは「Client」の C\$ として表示されます。また、ドライブの割り当ては Citrix サーバー側で行います。



「Storage Card」以外の「Network」、「Temp」、「Windows」フォルダも一緒に表示されてしまいます。「Network」、「Temp」、「Windows」フォルダに対してデータの読み書きは行わないでください。



本装置出荷時の設定は「クライアントドライブを表示しない」設定になっています。

6-4 タスクマネージャの起動

タスクマネージャを起動することで、本装置に搭載されているアプリケーションを実行することができます。

● タスクマネージャの起動

外付けキーボードかソフトウェアキーボードで「Alt + Tab」または「Alt + Esc」を入力するとタスクマネージャが起動します。



ICA/RDP クライアントが動作している状態で「Alt + Tab」または「Alt + Esc」を入力してもタスクマネージャが起動されません。

● コントロールパネルの実行

「6-1 設定変更ガード機能」の「ターミナル接続マネージャダイアログの非表示」を行った場合に、再度ターミナル接続マネージャを表示させるためにはコントロールパネルを起動する必要があります。この際もタスクマネージャを使用します。

1. タスクマネージャを起動し、「新しいタスク」ボタンをクリックします。
2. 「新しいタスクの実行」ダイアログが表示されたら、「参照」ボタンをクリックして「control.exe」を選択します。



3. 「OK」ボタンをクリックするとコントロールパネルが起動します。

● コマンドプロンプトの起動

WindowsCE のコマンドプロンプトを起動する場合にもタスクマネージャを使用します。

1. タスクマネージャを起動し、「新しいタスク」ボタンをクリックします。
2. 「新しいタスクの実行」ダイアログが表示されたら、「参照」ボタンをクリックして「cmd.exe」を選択します。
3. 「OK」ボタンをクリックするとコマンドプロンプトが起動します。

6-5 ネットワーク確認コマンド

本装置ではネットワークとの接続確認をするためのソフトを搭載しています。
本装置がサーバーとうまく接続できない場合や DHCP から取得した IP アドレスを表示したい場合、無線 LAN ドライバの動作確認などにご使用いただけます。



これらのコマンドはコマンドプロンプト上から起動します。
コマンドプロンプトの起動に関しては「6-4 タスクマネージャの起動」をご覧ください。

● Ping.exe

本装置から指定した IP アドレスにデータを送り、その応答を見ることでネットワークが正常に動作しているかを確認できます。

1. コマンドプロンプトから以下のように入力します。
 - `ping 192.168.1.1` (確認する IP アドレスが「192.168.1.1」の場合)
2. 入力した IP の応答により、以下のように表示されます。
 - `Reply from 192.168.1.1:Echo size=** time=*ms TTL=***` (応答があった場合)
 - `PING: transmit failed, error code *****` (応答がなかった場合)

● Ipconfig.exe

コマンドプロンプトから「ipconfig」と入力すると本装置の TCP/IP 設定を確認できます。
さらに、「ipconfig /all」と入力すると本装置のネットワーク設定に関する詳細な情報が表示されます。

7 周辺機器との接続

本章では、本装置と接続可能な周辺機器を上げるとともに、その設定方法について説明します。



ここで掲載している周辺機器は、2001 年 9 月時点で弊社にて動作確認を実施したものです。

なお、将来にわたる接続を保証するものではありません。周辺機器の仕様が変更になる場合があるためです。

7-1 PHS

本装置で動作を確認している PHS は以下のとおりです。

メーカー機種	型番
NTT DoCoMo	Mobile Card P-in
	P-in Compact
SII	PHS LINK64 (MC-P200)

7-2 PS/2 マウス

本装置で動作を確認している PS/2 マウスは以下のとおりです。



本装置には PS/2 マウス用標準ドライバがインストールされていますが、メーカーや機種によっては使用できない場合があります。

メーカー機種	型番
Logitech	M-S34

7-3 PS/2 キーボード/テンキーボード

本装置で動作を確認している PS/2 キーボードは以下のとおりです。



本装置には PS/2 キーボード用標準ドライバがインストールされていますが、メーカーや機種によっては使用できない場合があります。

- キーボード

メーカー機種	型番
MISUMI(Owltech)	KEK-EA9AU(SV)
	KEK-EA9AU(BK)
エレコム	TK-P2104JPW7
サンワサプライ	SKB-89DJ
PFU	Happy Hacking kkeyboard life(KB9975)
Akia	ACK-230

- テンキーボード

メーカー機種	型番
ELECOM	TK-LUSSV/U109JPW
サンワサプライ	NT-DOSV7

7-4 バーコードリーダー

本装置で動作を確認しているバーコードリーダーは以下のとおりです。

注意 本装置には PS/2 キーボード用標準ドライバがインストールされていますが、メーカーや機種によっては使用できない場合があります。

メーカー機種	型番
オムロン	V520-RHK1-10D
AIMEX	BR-530
東研	TCD-5530M
NSD	SystemGear PDC-018-06A-IP
富士通	FMV-BCR101(ペン型)
和泉データロジック	DLL5510

7-5 ストレージ機器

本装置で動作を確認しているストレージ機器は以下のとおりです。

CF カード(Compact Flash Card)

メーカー機種	型番
GreenHouse	GH-CFxxM
TDK	TC0xxHS
	SFM012W/C
ScanDisk	SDCFB-xx
Princeton Technology	PCF-32(FC032.6H6)
ADTEC	AD-CFGxx
ハギワラシスコム	HPC-CFxxXM(X シリーズ)
EPSON	SDP3B FP40
I/ODATA	PCCF-xxxMS

PC ATA CARD

メーカー機種	型番
HITACHI	HB2896016A4

Microdrive

メーカー機種	型番
IBM	Microdrive 340MB / 1MB

SRAM カード

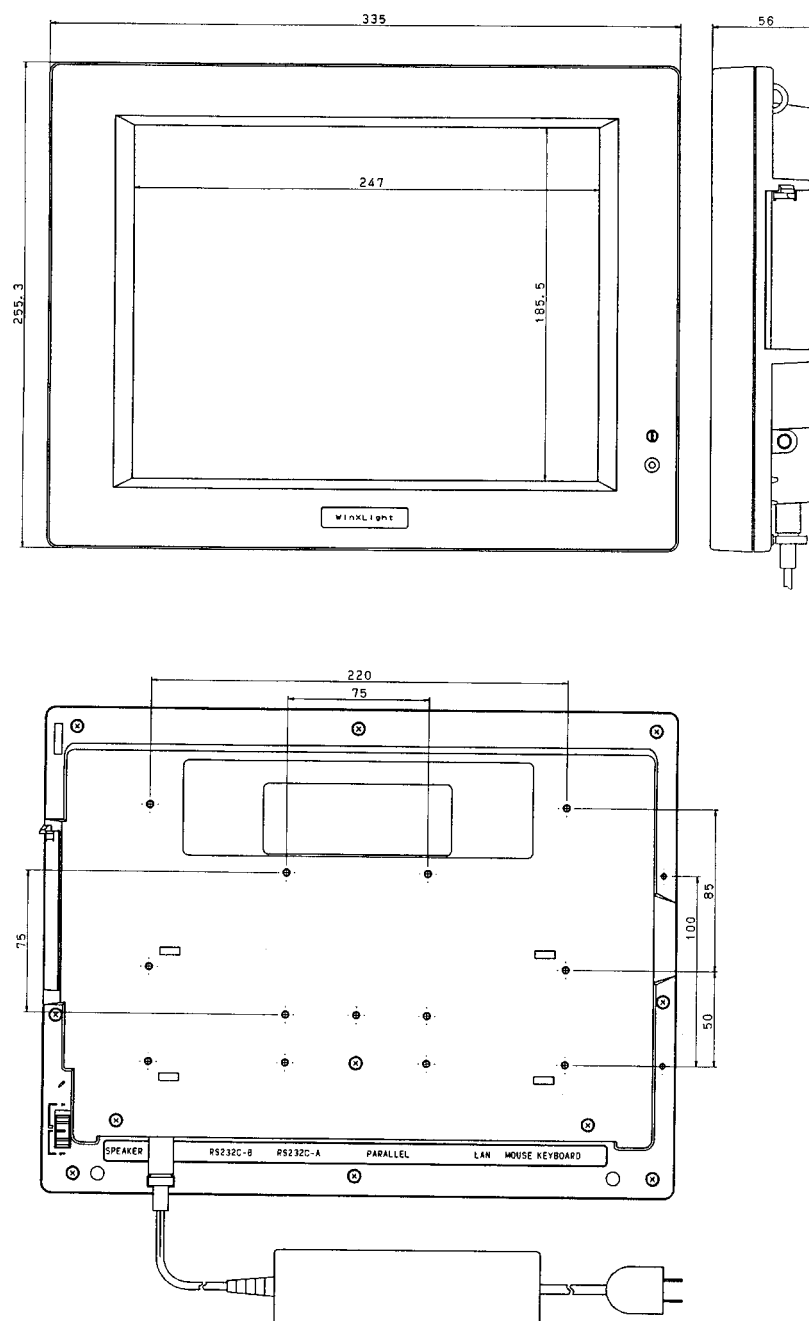
メーカー機種	型番
メルコ	RJB-1000
日立マクセル	ML-1.5M-TB

スマートメディア

メーカー機種	型番
ScanDisk	SDSM-32(スマートメディア)

注意 CF カードを使用される場合は、PC カードアダプタを別途購入してください。
本装置で使用可能な CF カードで、使用中にデータの読み書きができなくなった場合には PC カードスロットがついた Windows 搭載パソコンで初期化を行ってください。

8 本体各部の外形寸法



9 一般仕様

仕様(ハードウェア)

項 目		
ROM	Flash メモリ	32M バイト
RAM	SDRAM	32M バイト
表示機能	表示デバイス	TFT カラーLCD
	サイズ	12.1 インチ
	分解能	SVGA (800×600ドット)
	表示色	256 色
	バックライト	冷陰極管
	タッチパネル	アナログ・ハイクリア抵抗膜方式
インターフェース	LAN	10BASE-T(RJ-45 コネクタ) 1 ポート
	PCMCIA	TYPEⅢ 1 ポート 3.3V/5V 自動切り換え対応
	キーボード入力	PS/2 1 ポート
	マウス入力	PS/2 1 ポート
	パラレルポート	1 ポート
	シリアル	RS232C 2 ポート
	マイク入力	将来の拡張用にインターフェースは出ていますが、現在は使用できません。
	音声出力	将来の拡張用にインターフェースは出ていますが、現在は使用できません。
電源 注)1	定格電圧	AC100～240V 注)1
	定格周波数	50/60Hz
	消費電流	0.7～0.2A 以下 (AC100～240V)
	消費電力	52.8VA 以下
電源スイッチ		本体背面スライドスイッチ
質量		3.6Kg 以下(AC アダプタを含む) (AC アダプタ質量:0.6Kg)
外形寸法		335(W) × 255.3(H) × 56(D)

注)1.本体付属の AC アダプタを使用。本体付属の AC ケーブルは AC100V 専用です。

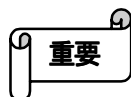
設置環境条件

項 目		
耐振動		JIS-C0911 準拠(指定の梱包状態) (5~55Hz 19.6m/s ² X、Y、Z 方向)
耐衝撃		JIS-C0912 準拠(X、Y、Z 98m/s ² 12ms 以下) (指定の梱包状態)
使用周囲温度範囲		0~45℃
使用周囲湿度範囲		15~85%RH 結露なきこと
保存周囲温度範囲		-10~60℃
使用周囲雰囲気		腐食性ガスのないこと
耐ノイズ性 注)2	電源	1000Vppパルス幅 100ns、1000ns コモンモード
	通信	400Vppパルス幅 100ns、1000ns 容量カップリング
耐電圧		AC1.5KV(1 分間) 電源入力端子~保護接地間
絶縁抵抗		DC500V にて 50MΩ 以上 電源入力端子~保護接地間
接地方法		第 D 種接地
構造		卓上据え置き(オプションスタンド使用)、壁掛け可
冷却方式		自然空冷

注) 2.信頼性試験による試験条件であり、全ての環境において値を保証するものではありません。

10 バックライト

本装置のカラーLCDの照明には冷陰極管を使用したバックライトが使われています。
バックライトは消耗品であり、表示の明るさが暗くなった場合は交換が必要です。
バックライトの交換については、弊社営業部または、ご購入の代理店にご相談ください。



バックライトは以下のような使い方をされますと輝度及び寿命が大幅に低下します。

- 低い周囲温度(5℃以下)での使用。
ヒーターの設置やできるだけ常温に近い環境での使用をおすすめします。
やむを得ずご使用される場合は定期的なバックライト交換をおすすめします。
 - 頻繁なバックライトの ON/OFF
- 通常使用時(常温)では、20000h 以上の寿命が有りますが、低温時(5℃以下)では、寿命が 1/20 以下になることがあります。
 - 寿命規定: バックライトの寿命は、常温(25℃)で使用して輝度が半減するまでの時間です。

11 タッチパネル

本装置はポインティングデバイスとして表示面にタッチパネルを装備しており、画面にふれるだけで操作を行うことができます。ただし、以下の事項に注意して使用してください。



- 本装置のタッチパネルはガラスを使用していますので、固いもので衝撃を与えたり、過度の力で押しますと破損の原因となります。
- シャープペンやドライバーなど、先の鋭利なもので本装置のタッチパネルを押さないでください。傷や故障の原因となります。
- ベゼルを強く押した場合、ベゼルがタッチパネルと接触してタッチパネルが誤作動する原因となります。



- 温度や湿度によりタッチパネルの特性が変化することがあります。タッチの位置がずれている場合には、「5-6 スタイラス」の手順でタッチパネルの調整を行ってください。
- タッチパネルにゴミなどが付着した場合タッチパネルが押されていると誤認識することがあります。
- タッチパネルの構造上、2点押しはできません。

12 インターフェース仕様

12-1 LAN

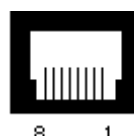
(1) LAN インターフェース IEEE802.3 10BASE-T

(2) コネクタ RJ-45 コネクタ

(3) コネクタピン番号と信号名

	1	2	3	4	5	6	7	8
信号名	TD+	TD-	RD+			RD-		

(4) コネクタ外観(本体側コネクタ正面図)



12-2 シリアルポート(RS232C-A,B)

(1) 伝送仕様(A,B 共通)

項 目	内 容
通信方式	全二重
同期方式	調歩同期方式
伝送距離	15m
接続形式	1:1
伝送速度	110bps～115200bps(本装置上で設定可能)注)
データ形式	スタートビット: 1ビット ストップビット: 1、2ビット データ長 : 7、8ビット パリティ : 偶、奇、無 (接続できる機器により固定)

注) 実際の伝送速度は、通信距離、ノイズなど周辺および接続環境により制限されます。

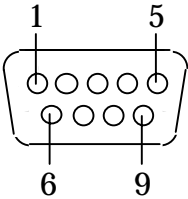
(2) コネクタ(一)ピン番号と信号名

ピン番号	信号名	方 向	内 容
1	DCD	入 力	キャリア検出
2	RD	入 力	受信データ
3	TD	出 力	送信データ
4	DTR	出 力	データ端子レディ
5	SG		信号 GND
6	未使用		
7	RTS	出 力	送信要求信号
8	CTS	入 力	送信可能信号
9	未使用		

RS232C-A はフロー制御／モデム制御が可能です。

RS232C-B はフロー制御／モデム制御ができません。DCD、DTR、CTS、RTS は接続されていません。

(3)コネクタピン配列(本装置本体側)

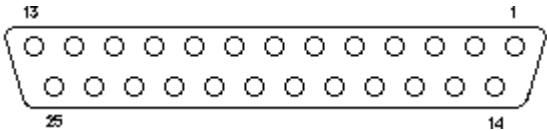


D-SUB コネクタ(オス)

- ・適合コネクタ
プラグ:HDEB-9S(ヒロセ電機製)または同等品
シェル:HDE-CTH(ヒロセ電機製)または同等品
注)シェルのネジは#4-40 UNC タイプを推奨します。

12-3 パラレルポート

(1)コネクタ外観図(本体側コネクタ正面図)



D-SUB25ピンメスコネクタ

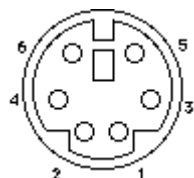
- 適合コネクタ
プラグ:HDBB-25P(ヒロセ電機製)または同等品
シェル:HDB-CTH(ヒロセ電機製)または同等品
注)シェルのネジは#4-40 UNCタイプを推奨します。

(2)コネクタピン番号と信号名

ピン番号	信号名	ピン番号	信号名
1	STROBE#	14	AUTO FOXT#
2	DATA0	15	ERROR#
3	DATA1	16	INIT#
4	DATA2	17	SLCTIN#
5	DATA3	18	GND
6	DATA4	19	GND
7	DATA5	20	GND
8	DATA6	21	GND
9	DATA7	22	GND
10	ACK#	23	GND
11	BUSY	24	GND
12	PAPER ERROR	25	GND
13	SELECT		

12-4 PS/2

(1) コネクタ外観図(本体側コネクタ正面図)



丸形ミニ DIN コネクタ 6 ピン

(2) コネクタピン番号と信号名

	信号名
1	DATA
2	NC
3	GND
4	+5V
5	CLOCK
6	NC

注) このコネクタの+5V からとる電流は 1 ポート当たり 0.5A 以下にしてください。

13 設置要領



- 設置にあたっては、「9 一般仕様」の環境下でご使用ください。
また、次のような場所での使用は避けてください。
 - 周囲温度、相対湿度が一般仕様の範囲を越える場所
 - 温度変化が急激で結露する場所
 - 腐食性ガス、可燃性ガス、溶剤・研削液などの雰囲気のある場所
 - 極端に塵埃、塩分、鉄分が多い場所
 - 直接、振動や衝撃が伝わるような場所
 - 長時間、直射日光が当たる場所
 - 雨、露などの水分が直接かかる場所
 - 強力なノイズを発生する機器、装置のある場所
 - 振動のある場所や衝撃が加わる場所

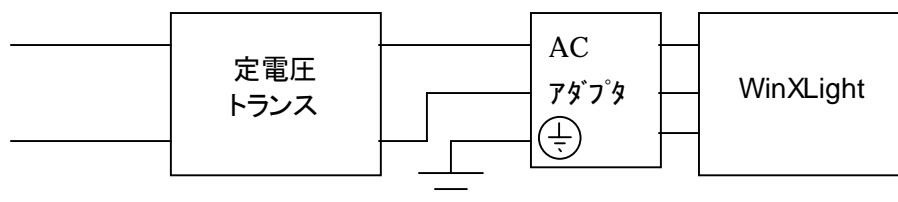
13-1 設置

水平で安定した机、テーブル、などの上に置いて使用してください。
表示面の角度は上下に可変できますので、見やすい角度に合わせてご使用ください。

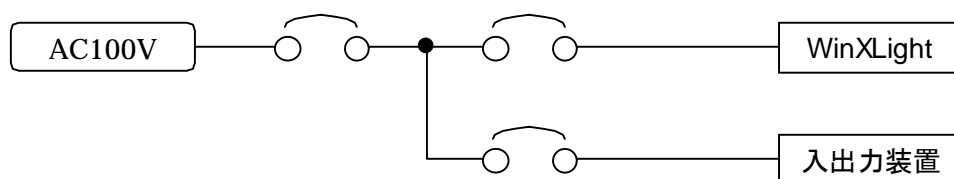
13-2 電源

本体と同梱の専用ACアダプタをご使用ください。

- (1) 電圧変動が規定値を越える場合は、定電圧トランスを接続してください。



- (2) 本装置の電源配線は、動力機器および入出力機器とは系統を分離して配線してください。

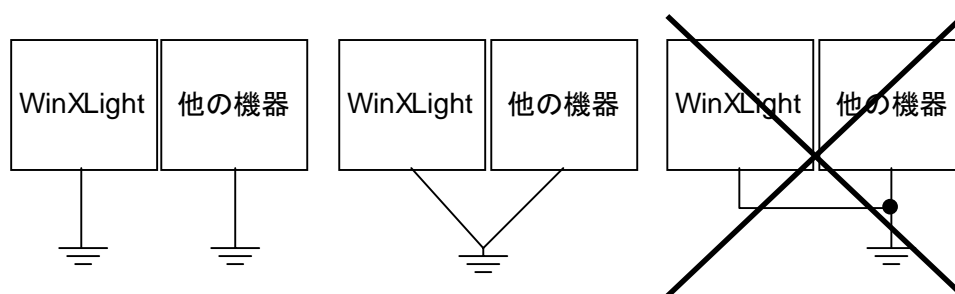


- (3) 電源にノイズの多い場合は、絶縁トランス(ノイズカットトランス)を入れてください。

- (4) 電源ケーブルは、本装置以外の高圧線および動力線、入出力信号線とは 200mm 以上離して配線してください。

13-3 接地

(1) 感電防止のため、AC アダプタの接地線は第 D 種接地 (接地抵抗 100Ω 以下) をしてください。



13-4 その他の結線

RS232C やイーサネットのケーブルは電源ケーブルやその他の高圧線や動力線、入出力信号線とは 200mm 以上離して配線してください。

14 トラブルシューティング

Q. 無線通信ができない

- 通信媒体の取り扱い説明書をご参照ください。
- 「コントロールパネル」-「WinXLight」-「通信/印刷」をクリックし、「本体の LAN を無効にする」にチェックが入っていることを確認してください。入っていない場合はチェックを入れてください。

Q. カードモデムを使用してダイヤルアップ接続時に接続が確立されない

- PC カードアダプタを搭載したパソコンでカードモデムの動作確認を行ってください。接続されない場合は、ご使用のカードモデムの販売会社にお問い合わせください。

Q. 画面が暗い

- バックライトが切れていないかご確認ください。
- 「コントロールパネル」-「WinXLight」-「ディスプレイ」でバックライト/コントラストを調整してください。

Q. 音声が出力されない

- 本装置は現在音声を出力しない仕様になっています。

Q. タッチパネルの位置が合わない

- 「コントロールパネル」-「スタイラス」-「タッチスクリーンの補正」でタッチパネルの調整を行ってください。

Q. タッチパネルが正常に動作しない

タッチパネルが正常に動作していない場合は、以下の事項を確認してください。

- タッチパネルにゴミなどが付着していませんか。
- ベゼルが変形してタッチパネルに接触していませんか。
- タッチパネルにキズやヒビがありませんか。

以上の項目を確認して異常がなければ、当社までご連絡下さい。

Q. 接続エントリの作成で英数字しか入力できない

- 本装置は IME を搭載していません。よって、接続エントリの作成などで日本語入力を行うことはできません。

15 保守

15-1 保守

- タッチパネルにはガラスを使用していますので、拭きとる場合はタッチパネルに過度の力を加えないようにしてください。破損の原因となります。
- 本装置を使用しない場合は、電源を落してください。

15-2 お手入れ

★ 外装清掃時

- 本装置や、本装置に接続する周辺機器(キーボード、マウス、プリンタ、PCMCIAカードなど)の外装の汚れを拭きとるときには、柔らかい布に中性洗剤を滴れない程度にしみこませて、軽く拭きとってください。



決してベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

★ タッチパネル清掃時

- タッチパネルやケースが汚れた場合は、水で薄めた中性洗剤や工業用アルコールを柔らかい布や脱脂綿にしみこませ汚れを拭きとってください。
- 中性洗剤を使用する場合は、かたく絞ってから拭きとるようにしてください。



シンナーや有機溶剤、アンモニア、強酸系の溶剤などで拭かないでください。



タッチパネル清掃時は、本装置の電源を落としてください。パネルの入力がおかしくなり、誤作動の原因となる恐れがあります。

16 廃棄・処分



- 本装置や電池を破棄するときは、各地方自治体の条例にしたがって処理してください。詳しくは最寄りの自治体にお問い合わせください。
- LCD のバックライトには蛍光管が使用されています。廃棄の際には各自治体の条例にしたがって処理してください。

2001 年 3 月 30 日 初版 発行
2001 年 10 月 15 日 二版 発行

KOMATSU

コマツ
エレクトロニクス事業本部 ネットワーク事業部

営業部
〒220-0023 神奈川県横浜市西区平沼 1-2-24
横浜 NT ビル 2F
TEL 045-411-2350 FAX 045-411-2361

(サービス)
〒254-8555 神奈川県平塚市四之宮 3-25-1
TEL 0463-22-8577 FAX 0463-22-8586